

横田喜三郎著作目録

松田 義男 編

改訂 2023 年 12 月 5 日

2006 年 1 月 7 日

目次

1. 著書・訳書
2. 共著
3. 辞典類
4. 編集
5. 論文等（新聞・雑誌掲載）

凡例

*著作の形態に応じて、「1. 著書・訳書」、「2. 共著」、「3. 辞典類」、「4. 編集」、「5. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に分類し、それぞれを年次順に配列した。

*著書の再版・増補版は、原則として、初版に一括して[]に注記した。編著・共著・共訳・監修の別については、[]に示した。叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。

*新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。

*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。

*目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。

*新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。

*編者未見の著作については、表題冒頭に*を付した。

*その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録の作成に際しては、横田喜三郎編「私の著述」(『余生の余生』有斐閣、1987年)を参照したほか、国立国会図書館、法務図書館、東京都立中央図書館、日本新聞博物館新聞ライブラリー、早稲田大学中央図書館・同法律文献情報センター・同現代政治経済研究所、東京大学総合図書館・同法学部研究室図書室・同大学院教育学研究科教育学部図書室・同大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)・同社会情報研究資料センター、立教大学図書館、京都府立総合資料館、兵庫県立図書館、岡山県立図書館、金光図書館、愛知県江南市立図書館、大宅壮一文庫より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

付記

本著作目録では、講演・談話筆記は採録したが、「無抵抗平和論ではね」(『中国新聞』1956年7月1日)、「日本人は観念論的 自身の幻影におびえるな」[涼風に語る](『東京新聞』1963年8月17日)などのインタビュー記事・講演傍聴記事は採録していない。講演・談話筆記とインタビュー記事・講演傍聴記事との境界はあいまいである。校閲を経ない講演筆記・談話をすべて採録しないことも一つの編集方針ではあるが、校閲の有無を確認できない場合もある。いずれにせよ、ある境界線では採録基準の曖昧さは避けがたい。

1. 著書・訳書

- 『政治学体系要論』[Rudolf Kjellen, *Grundriss zu einem System der Politik* の訳]政治学普及会、1926年5月8日[岩田静郎署名]
- 『国際法講義』[第1・2巻]有斐閣、1932年2月14日、1933年1月30日
- 『満州問題解決案 未定稿』[巖山政道、松方義三郎、松本重治、山中篤太郎、浦松佐美太郎との共同研究報告]三秀舎、1932年6月16日[はしがきの日付]
- 『国際法』[上・下巻]有斐閣、1933年5月5日、1934年4月15日[改訂版：1938年、1940年]
- 『国際判例研究 I』有斐閣、1933年10月28日
- 『国際法』<岩波全書 4>岩波書店、1933年12月10日
- 『ケルゼン純粋法学』[Hans Kelzen, *Reine Rechtslehre*, 1934 の訳]岩波書店、1935年4月15日
- 『国際裁判の本質』岩波書店、1941年5月25日
- 『海洋の自由』<国際法学叢書 3>岩波書店、1944年1月10日
- 『国際法の法的性質』<国際法論文叢書 1>岩波書店、1944年4月5日[新版：野村書店、1948年10月30日]
- 『戦後の国際平和機構に関する研究』世界政治研究所、1945年8月[序]<序によると、原稿は1945年3月には出来とのこと>
- 『国際連合 研究と解説』<国民大学文庫 1>政治教育協会、1946年5月1日
- * 『国際連合と日本の将来』<民主大学双書 2号>加越能青年文化連盟編・刊、1946年
- * 『戦争放棄と日本の将来』<新潟県社会教育協会パンフレット>新潟県社会教育協会編・刊、1946年
- 『ポツダム宣言と日本の将来』<公民叢書 3>社会教育連合会、1946年11月30日
- 『国際連合の研究』銀座出版社、1947年5月25日
- 『国際的民主主義』<民主主義講座 第2巻>革新社、1947年6月25日
- 『戦争犯罪論』<法学選書>有斐閣、1947年7月20日[増訂版：1949年]
- 『戦争の放棄』<新憲法大系>国立書院、1947年10月20日
- 『戦争放棄について』日本青年館、1948年2月20日
- 『戦争犯罪の法理 ニュールンベルグ裁判と侵略戦争』[Sheldon Glueck, *The Nuremberg Trial and aggressive war* の訳]道遥書院、1948年9月25日
- 『世界国家の問題』同友社、1948年1月10日[評論集]
- 『国際法』[新版]<有斐閣全書>有斐閣、1948年6月25日[改訂版：1960年。再訂版：1986年]
- 『世界の進路』<社会科学新書 6>実業教科書、1949年1月30日
- 『世界平和への道』<社会科文庫>三省堂出版、1949年5月[<(社会科文庫選集 政治経済編 7)>三省堂 1954年、<三省堂百科シリーズ>三省堂出版、1956年7月10日]
- 『安全保障の問題』<法学叢書>勁草書房、1949年10月15日

- 『国際法の基礎理論』有斐閣、1949年12月20日[論文集]
- 『天皇制』労働文化社、1949年7月15日[新版：ミュージアム図書、1997年]
- 『日本の講和問題』勁草書房、1950年2月15日
- 『国際組織の発展』＜法律学体系 157＞日本評論社、1950年6月15日[『法律学体系 第2部 法学理論篇 13』(日本評論社、1954年)収録]
- 『国際連合』有斐閣、1950年6月25日[改訂版：1960年]
- 『朝鮮問題と日本の将来』勁草書房、1950年11月20日
- 『民主主義の広い理解のために』＜市民文庫 43＞河出書房、1951年7月15日
- 『自衛権』有斐閣、1951年9月10日
- 『国際法』＜「法学」叢書 9＞勁草書房、1951年11月5日[国際法『法学』(勁草書房、1953年)の分冊化]
- 『パリの奇跡』＜随筆選集＞勁草書房、1952年10月10日[随筆集]
- 『世界』[編著]＜らいぶらりい・しりいず 6＞有斐閣、1954年11月30日
- 『国際法学 上巻』有斐閣、1955年6月30日
- 『国際連合と日本』[共著：尾高朝雄]有斐閣、1956年7月10日
- 『純粹法学』＜法学選集 2＞勁草書房、1957年7月5日[論文集]
- 『国際法 II』＜法律学全集 56＞有斐閣、1958年3月5日[新版：有斐閣、1972年]
- 『海の国際法 上巻』有斐閣、1959年5月30日[増訂版、1969年。改訂版：1977年]
- * 『日本の安全保障と国際連合』＜懇話会資料 第8号＞安保条約問題全国懇話会、1960年2月＜長崎県立図書館所蔵＞
- * 『日本の安全保障と国際連合』＜講演シリーズ 116＞内外情勢調査会、1960年
- 『外交関係の国際法』有斐閣、1963年1月25日
- * 『欧米の違憲裁判を見て』＜講演シリーズ 205＞内外情勢調査会、1963年＜青森県立図書館所蔵＞
- 『裁判の話』＜講談社現代新書＞講談社、1967年6月16日
- 『違憲審査』有斐閣、1968年10月15日
- 『人権とユネスコ』東京都教育委員会、1968年3月10日
- 『人権尊重のために』＜IDE教育選書 124＞民主教育協会、1968年5月15日
- 『国際判例研究 II』有斐閣、1970年7月30日
- 『人類の危機を打開する道 戦争・公害・人口爆発に対処して』＜明治学院大学キリスト教研究所編『賀川豊彦記念講座 第4集』＞キリスト新聞社、1972年8月10日
- 『領事関係の国際法』有斐閣、1974年11月20日
- 『国境のない旅』読売新聞社、1976年7月20日[随筆集]
- 『国際法論集 I』有斐閣、1976年8月30日[論文集]
- 『純粹法学論集 I』有斐閣、1976年3月30日[論文集]

『私の一生』東京新聞出版局、1976年8月6日
『純粋法学論集 II』有斐閣、1977年7月30日[論文集]
『国際法論集 II』有斐閣、1978年4月15日[論文集]
『書かれた法律と生きた法律』<東書選書 30>東京書籍、1979年1月6日
『組合の自由—その国際的基準と日本—』有斐閣、1979年8月20日
『国際判例研究 III』有斐閣、1981年5月30日
『法律は弱者のために』<小学館創造選書 45>小学館、1981年12月25日
『法律つれづれ草』<小学館創造選書 82>小学館、1984年11月10日
『余生の余生』有斐閣、1987年7月10日
『世界と共に歩む』読売新聞社、1991年6月20日

2. 共著

国際社会の帰趣『野幌林間大学講演集』第2輯、北海道林業会、1926年5月5日
少数民族問題『アベリストウイスの大会』[国際聯盟協会国際聯合会第十回総会報告]<国際聯盟協会パンフレット第68輯>国際聯盟協会編・刊、1926年12月1日
法律問題『アベリストウイスの大会』[国際聯盟協会国際聯合会第十回総会報告]<国際聯盟協会パンフレット第68輯>国際聯盟協会編・刊、1926年12月1日
私法学における諸傾向『フランスの社会科学 現代に於ける諸傾向』フランス学会編、刀江書院、1930年2月10日[「ジェニーの自由法論」と改題、『純粋法学論集II』収録]
国際法と国内法との論理的関係『山田教授還暦祝賀論文集』神川彦松編、有斐閣、1930年5月25日[『国際法の基礎理論』収録]
Begriff und Gliederung der Verfassung der Völkerrechtsgemeinschaft, Gesellschaft, Staat und Recht, hrg. von A. Verdross, 1931
太平洋に於ける平和機関『上海に於ける太平洋会議』那須皓編、太平洋問題調査会、1932年4月25日
一般法律理論『ケルゼンの純粋法学 並、その国家・政治理論』[共著]大畑書店、1932年6月10日[初出:『法律時報』3-10、1931年10月1日[「純粋法学の一般理論」と改題、『純粋法学』(勁草書房、1957年)、『純粋法学論集I』収録]
裁判と法律『法学協会五十周年記念論文集 第1部』法学協会、1933年4月20日[『純粋法学論集 I』収録]
戦争の防止『立教授還暦祝賀 国際法論文集』[編著]有斐閣、1934年4月5日[『国際法論集II』収録]
国際法[「学界—昭和九年法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十年版』<『法律時報』臨時増刊>日本評論社、1935年6月10日
現在に於ける国際法学の任務『経済科学』神戸商大新聞部編、甲文堂書店、1936年1月1日
国際法[「学界—昭和十年法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十一年版』日本評論社、1936年8月11日

- 日本における治外法権—その法学的考察—『国家学論集』国家学会編、有斐閣、1937年7月19日[『国際法論集Ⅰ』収録]
- 平時国際法『国際法Ⅱ』<新法学全集 第26巻>日本評論社、1937年10月1日
- 児童の国際的保護『家族制度全集 第1部史論篇Ⅲ親子』河出書房、1937年12月20日
- 法と強制『牧野教授還暦祝賀 法理論集』[小野清一郎編]有斐閣、1938年3月20日[『純粹法学論集Ⅰ』収録]
- 国際行政法の理念『野村教授還暦祝賀 公法政治論集』刑部荘、有斐閣、1938年9月30日
- 満洲国ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廃止ニ関スル法律『第七十四帝国議会新法律の解説』法学協会、1939年6月25日
- 国際法[「学界—昭和十三年法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十四年版』日本評論社、1939年11月24日
- アメリカ中立法の研究—特にその实际的機能について—『時局関係国際法外交論文集』巖松堂、1940年6月20日
- 国際法[「学界—昭和十四年法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十五年版』日本評論社、1940年12月20日
- 国際法[「学界—昭和十五年法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十六年版』日本評論社、1941年12月20日
- わが国における国際法の研究『東京帝国大学学術大観 法学部経済学部』東京帝国大学、1942年5月20日[『国際法論集Ⅰ』収録]
- 条約の解釈『杉山教授還暦祝賀論文集』福井勇二郎、岩波書店、1942年11月4日[『国際法論集Ⅰ』収録]
- 国際法[「学界—昭和十六年度法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十七年』日本評論社、1942年12月25日
- 国際法[「学界—昭和十七年度法学界の回顧と展望—」]『法律年鑑 昭和十八年版』日本評論社、1944年11月20日
- 「ポツダム及び降伏文書の法的性質、ポツダム宣言及び降伏文書と主権」1945年10月[『外務省記録[外交記録]』中「ポツダム宣言受諾関係一件(第3巻)』(国立国会図書館憲政資料室所蔵)]
- 国際主義と民主主義『民主主義の理論』堀真琴・樺俊雄編<民主主義講座 1>愛育社、1946年7月10日
- 戦争の放棄『新憲法講座 第1巻』政治教育協会、1946年11月3日[『新憲法講座 上巻』国土社、1949年5月25日]
- 民主政治の意義と価値『民主主義十二講』日本放送出版協会、1946年11月20日
- 国家間の民主主義『民主主義十二講』日本放送出版協会、1946年11月20日
- 世界とともに—国際連合と新しい日本—『読売政治年鑑 昭和22年版』読売新聞社、1946年12月10日
- 愛国と国際主義『新愛国論 民主主義と愛国の理想』文理書院、1947年5月20日[『愛国の理想と民主主義—愛国心の哲学的・政治学的・歴史的・文学的考察—』[監修](文理書院、1948年8月20日)、『愛国心とはなにか』(文理書院、1950年8月10日)、『現代のエスプリ 30 愛国心』(至文堂、1970年)]

収録]

戦争放棄『新憲法講話』憲法普及会編、政界通信社、1947年7月20日

新憲法に於ける主権の概念『新憲法と主権』憲法研究会編、永美書房、1947年5月3日[『国民主権と天皇制』<文献選集日本国憲法2>(三省堂、1977年)収録]

日本管理の機構『日本管理法の解説』<東洋経済講座叢書 14>東洋経済新報社、1947年5月18日

講和会議後の日本の地位『講和会議後の日本と我々の生活』<『自由国民』8>時局月報社、1947年9月10日

『連合国の日本管理—その機構と政策—』[編著]大雅堂、1947年9月30日[「管理の一般機構」(「連合国の日本管理機構」『日本管理法令研究』7、1946年10月15日)、「管理の基本方式」(「日本管理の基本方式」『日本管理法令研究』1、1946年5月1日)、「一般的基本原則」(「日本管理の基本原則」『日本管理法令研究』2、1946年6月1日)、「教育の自由主義化」(『日本管理法令研究』5、1946年8月15日)収録]

新講和条約の基本的性格『枢軸講和条約研究』<国際時事研究 第1巻>時事研究所、時事通信社、1948年4月25日

国際連合の話『社会問題廿四講 上巻』社会主義政治経済研究所、平凡社、1948年12月20日

国際連合の組織と機能『国際政治と民族問題』<社会主義講座 第9巻>社会主義教育協会編、三元社、1949年1月15日

国際人権宣言『自由人権叢書 第2集』法務庁人権擁護局、1949年1月21日

民主主義と国際法『民主主義の法律原理』<法学選書>有斐閣、1949年2月20日

講和会議は既に始まっている『九原則下の日本の働きと我々の生活戦術』<『自由国民』19>時局月報社、1949年3月10日

第三次大戦と日本の立場『太平洋同盟と日本 第三次大戦に備へよ』読売新聞社科学部、高山書院、1949年10月25日

集团的自衛『法理学及国際法論集 恒藤博士還暦記念』京大法学会恒藤博士還暦記念論文集刊行会、有斐閣、1949年11月10日

国際法『法学研究の栞 上』東京大学学生文化指導会、東京大学学生文化指導会、1950年7月16日

国際法『法学』[共編：宮沢俊義]勁草書房、1950年11月20日

外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1951年度編集』自由国民社、1951年1月10日

外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1952年』自由国民社、1951年12月

平和条約の特色『平和条約の総合研究 上巻』国際法学会、有斐閣、1952年5月20日

外国軍と日本の裁判権のはなし『我々の生活をまもる法律知識』<『自由国民』47>自由国民社、1952年11月20日

国際法の性質『国際法講座 第1巻』国際法学会、有斐閣、1953年3月25日

国際法と国内法『国際法講座 第1巻』国際法学会、有斐閣、1953年3月25日

自衛権『国際法講座 第1巻』国際法学会、有斐閣、1953年3月25日

外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1954年版』自由国民社、1953年10月10日

- 戦争犯罪『国際法講座 第3巻』国際法学会、有斐閣、1954年7月30日
- 外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1955年度編集』自由国民社、1954年12月10日
- 沖縄と日本の主権『沖縄の地位』国際法学会、有斐閣、1955年7月10日
- 国連と安全保障『国際連合 1』<外政講座シリーズ>日本外政学会出版局、日本外政学会、1956年3月26日[改訂版：日本外政学会、1957年3月1日]
- 外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1956年度編集』自由国民社、1956年5月10日
- 新しい外交用語『現代用語の基礎知識 1957年度版』自由国民社、1957年3月20日
- 外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1958年度版』自由国民社、1957年11月10日
- *War as an international crime, Grundprobleme des internationalen Rechts(= Fundamental problems of international law = Problemes fondamentaux du droit international), Festschrift für Jean Spiropoulos, herausgegeben von D.S. Constantopoulos, 1957<日大法学部図書室所蔵>
- *平和に生きるために[座談会：宮沢俊義、坂西志保]『平和に生きるために 世界人権宣言をめぐる諸問題』日本ユネスコ国内委員会、1958年11月<金沢大学附属図書館所蔵>
- 外交用語の解説『現代用語の基礎知識 1959年』自由国民社、1959年6月10日
- 紛争の解決『海の国際法 下巻』[小田滋著]有斐閣、1959年8月30日
- 日本の安全保障の基本条件『安全保障体制の研究 上』<時事新書>時事通信社、1960年1月20日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 '60年拡大版』自由国民社、1960年9月10日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1961年版』自由国民社、1961年5月15日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1962年版』自由国民社、1961年9月15日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1963年版』自由国民社、1962年11月1日
- *民主主義と裁判『鳥取大学課外講座』1962年
- 外交関係と司法権—アメリカの判例にそくして—『国際法学の諸問題 前原光雄教授還暦記念』慶応通信、1963年10月30日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1964年版』自由国民社、1963年11月1日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1965』自由国民社、1965年5月15日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1966』自由国民社、1965年12月1日
- *少年問題について『神楽坂全区のあゆみ』新宿保護司会、1965年
- 山梨学院大学廿年史刊行によせて 世界と共に歩む『山梨学院大学廿年史』山梨学院大学、1966年6月3日
- 国際政治用語の解説『現代用語の基礎知識 1967』自由国民社、1967年1月1日
- 国際法用語の解説『現代用語の基礎知識 1968』自由国民社、1968年1月1日
- 純粋法学と法律解釈『法の解釈と運用』<法哲学年報 1967>[日本法哲学会編]有斐閣、1968年4月25日[『純粋法学論集 I』収録]
- Political questions and judicial review, Dan Fenno Henderson ed., *The Constitution of Japan, its first twenty years, 1947-67*, University of Washington Press, 1968.

- 国際法用語の解説『現代用語の基礎知識 1969』自由国民社、1969年1月1日
- 「人民の名」において一バリー不戦条約騒動記[談]『証言私の昭和史 1 昭和初期』東京 12 チャンネル報道部、学芸書林、1969年6月23日
- 国際法用語の解説『現代用語の基礎知識 1970』自由国民社、1970年1月1日
- 国際法用語の解説『現代用語の基礎知識 1971』自由国民社、1970年12月1日
- 国際法の研究について『理論法学の課題 法哲学・法社会学・法史学』<ジュリスト増刊 基礎法学シリーズ 3>有斐閣、1971年1月20日
- 国際教育の目標[1970年7月2日講演]『教育の危機とは何か』<砂時計・現代シリーズ 2>日本ユネスコ協会連盟編、ヴェリタス出版社、1971年4月10日
- 民主主義と裁判『教養講座シリーズ 12』国立教育会館編、帝国地方行政学会、1971年10月5日[国立教育会館編『現代教養講座 第10巻』(ぎょうせい、1977年)収録]
- ユネスコ活動のあり方『世界平和への提言』日本ユネスコ協会連盟、1972年6月1日
- 中山君との碁『中山伊知郎全集 第2集 月報 第12号』講談社、1973年1月20日[『中山伊知郎全集 別巻』(講談社、1973年)収録]
- 最高裁三代目長官の事件簿[対談：江口滋]『昭和の音の記録 14』<『日本人の100年 14』付録>世界文化社、1973年3月21日
- *小学校の思い出『こみなみ』古知野南小学校、1973年
- ケルゼンとわたくし『ハンス・ケルゼン』<UP選書>[鶴飼信成・長尾龍一編]東京大学出版会、1974年3月25日
- こくめいな人となり『追想の我妻栄 険しく遠い道』[有泉亨ほか編]一粒社、1974年10月15日
- *二つの対抗戦『法曹東西対抗テニス第10回記念誌』1975年
- *International standards of freedom of association for trade union purposes, Recueil des cours de l'Academie de droit international de La Haye / Academie de droit international de La Haye, tome 1, 1975
- 法曹を志す若い学徒へ『法学セミナー増刊 司法試験案内論文式—'77年版—』日本評論社、1977年1月15日
- 和而不流『道 昭和の一人一話集 1』中統教育図書、1980年6月21日
- わかり易く、力強い話しぶり『一路八十年 中山伊知郎先生追想記念文集』中山知子編、中央公論事業出版、1981年4月9日
- ジュネーブの思い出『追想の蛸山政道』蛸山政道追想集刊行会、1982年5月15日
- よい相談者『波多野勤子著作集 第5巻 月報 2』小学館、1982年6月
- 編集の思い出『[復刻]日本管理法令研究 第12巻』大空社、1992年6月19日

3. 辞典類

- 『社会科学大辞典』[社会思想社編]改造社、1930年5月15日[執筆項目：「委任統治」「国際(仲裁)裁判」「租借地」「治外法権」「賠償問題」]

- 『大百科事典 第9巻』平凡社、1932年8月19日[執筆項目：国際運河、国際公法、国際裁判、国際地役、国際法、国際法学会、国際法協会、国家承認、国家相続]
- 『法律学辞典 1』岩波書店、1934年12月5日[執筆項目：安全保障、運河、永久中立国、沿岸貿易2、外交使節、外交団、国際法上の外国人、海賊、加入(条約の)、国際法上の関税、九国条約(支那に属する)]
- 『法律学辞典 2』岩波書店、1935年6月30日[執筆項目：国際法上の軍艦、公海、国際法上の航空機、国際委員会、国際会議、国際河川、国際公法、国際裁判、国際裁判義務、国際裁判所、国際事実審査委員会、国際調停、国際紛争の平和的处理、国際法、国際法学会、国際礼讓、国際連盟、国家(国際法上の)、国家責任(国際法上の)、ジュネーヴ議定書、純粋法学派、少数民族、常設国際司法裁判所、常設仲裁裁判所、商租権、国際法上の条約、国際法上の船舶。このうち、「純粋法学派」は「純粋法学」と改題、『純粋法学』(勁草書房、1957年)、『純粋法学論集 I』収録]
- 『法律学辞典 3』岩波書店、1936年3月15日[執筆項目：船舶抑留、ダルダネル海峡、治外法権、仲介(国際法上の)、登録(条約の)、ドラゴナー主義]
- 『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日[執筆項目：ハーグ平和会議、犯罪人引渡、庇護権、批准、復仇、不戦条約、平時国際公法、平時封鎖、報復、門戸開放、モンロー主義、留保(条約の)、領事、領事裁判、ロカルノ条約]
- 『新版 現代哲学辞典』三木清編、日本評論社、1941年3月20日[執筆項目：国際主義]
- 『社会科学新辞典』河出書房、1941年4月30日[執筆項目：国際政治、モンロー主義]
- 『社会科事典 第五巻』平凡社、1949年3月28日[執筆項目：世界国家]
- 『社会科事典 第八巻』平凡社、1949年7月25日[執筆項目：日本と世界]
- 『社会科学辞典』河出書房、1949年11月30日[執筆項目：世界国家]

4. 編集

- 『改訂 国際条約集』[共纂：立作太郎・松原一夫]外交時報社、1932年6月28日
- 『岩波法律学小辞典』[共編：我妻栄・宮沢俊義]岩波書店、1937年11月15日
- 『国際条約集』[共編：神川彦松]岩波書店、1941年7月15日
- 『国際条約集』[編]有斐閣、1950年7月20日[改訂版(第3版)：1952年9月20日。全訂版(第6版)：1955年12月10日。第8版：1957年11月5日。改訂増補版(第12版)：1963年11月20日。新版(高野雄一と共編)：1970年3月25日、第2版：1972年7月、第3版：1974年12月、第4版：1978年4月。1981年～1992年まで毎年刊(1988年版から編集代表)]
- 『国際法』<法律学演習講座>[編]青林書院、1954年7月15日
- 『国際法』[編] <新法律学演習講座>青林書院、1960年1月25日[新訂版：<現代法律学演習講座>青林書院新社、1966年12月20日]

5. 論文等（新聞・雑誌掲載）＜1816 篇＞

1922(大正 11)年

日本に於けるイギリス人の婚姻[「雑録」]『法学協会雑誌』40-7、9、7月1日、9月1日<<岩田喜三郎>>
ワシントン会議後の日米関係—合衆国日米協会の弁明書—『国家学会雑誌』36-8、8月1日<<岩田喜三郎>>

1923(大正 12)年

恒藤恭著『国際法及び国際問題』[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』37-1、1月1日<<岩田喜三郎>>
国際裁判の歴史的研究『国家学会雑誌』37-2~8、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日<<岩田喜三郎>>[『国際法論集 I』収録]
国際連盟総会第三会期の成績『国際法外交雑誌』22-5、6、5月15日、7月1日<<岩田喜三郎>>
オープンハイム『国際法の将来』[「雑録」]『国際法外交雑誌』22-8、9、11月15日、12月15日<<岩田喜三郎>>
H. Kelsen, Das Problem der Souveränität u. die Theorie des Völkerrechts, 1920 [「紹介及批評」]『国家学会雑誌』37-12、12月1日<<岩田喜三郎>>[「ケルゼン「主権と国際法」Kelzen, Das Problem der Souveränität u. die Theorie des Völkerrechts, 1920 の紹介」と改題、『純粹法学論集 I』収録]

1924(大正 13)年

英国労働党内閣の成立に面して[「大学より社会へ」]『帝国大学新聞』68、3月2日
常設国際司法裁判所合衆国参加論の歴史的背景『外交時報』465、466、4月15日、5月1日
排日立法と国際連盟[「大学より社会へ」]『帝国大学新聞』79、6月13日
澤田謙著『国際連盟概論』[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』38-7、7月1日
板倉卓造著『近世国際法史論』[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』38-7、7月1日
国際連盟第四年の成績『国際法外交雑誌』23-6~8、7月1日、9月15日、10月15日
松原一雄著『現行国際法』[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』38-8、8月1日
L. Bourgeois, L'oeuvre de la société des Nations[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』38-9、9月1日
強制国際裁判と日本『帝国大学新聞』88、10月3日
国際連盟新議定書と日本『外交時報』478、11月1日
国際連盟と国内問題—国内問題に対する連盟干渉の法理と限界—『国際法外交雑誌』23-10、12月15日
戦争は犯罪なり『帝国大学新聞』101、12月22日

1925(大正 14)年

- 一般国際関係[「一九二四年度海外政治立法事情」]『国家学会雑誌』39-1、1月1日
- 国際立法への寄与『国際知識』5-1、1月1日
- 学祖グロチウスの「戦争と平和の法」に献ぐー公刊第三百年に際してー『帝国大学新聞』112、3月23日
- 国際連盟第五年の成績『国際法外交雑誌』24-3、4、6、7、3月15日、4月15日、7月1日、9月1日
- グロチウスに於ける国際法と自然法との関係『国際法外交雑誌』24-5、5月15日[『国際法論集Ⅱ』収録]
- 文化科学としての政治学の方法論ー嶺山政道著『政治学の任務と対象』に就てー『国家学会雑誌』39-5、5月1日[『純粋法学論集Ⅱ』収録]
- 国際利益闘争の産物としての海洋自由の原則『外交時報』492、6月1日
- W. Sauer, Übersicht die gegenwärtigen Richtungen in der deutschen Rechtsphilosophie [「紹介及批評」]『国家学会雑誌』39-7、7月1日
- 法律解釈の価値論的考察『法学志林』27-11、12、11月1日、12月1日[『純粋法学論集Ⅱ』収録]

1926(大正 15・昭和元)年

- 一般国際関係[「一九二五年度海外政治立法事情」]『国家学会雑誌』40-1、1月1日
- 連盟側観『帝国大学新聞』183~187、10月25日、11月1日、10月8日、10月15日、10月24日

1929(昭和 4)年

- 欧米の新聞を比較して『帝国大学新聞』280~283、1月14、21、28日、2月4日[『大学の運命と使命』(千倉書房、1930年)、『日本教育史基本文献・史料叢書 13 大学の運命と使命』(大空社、1992年)収録]
- *国際正義と国際連盟『富山教育』184、3月1日<富山県図所蔵>
- 『国際判例研究』を始めるについて『国際法外交雑誌』28-3、3月1日
- キール運河の自由通航[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-3、3月1日
- Politis, N., Les nouvelles tendances du droit international[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-3、3月1日
- Heller, H., Die Souveränität : ein Beitrag zur Theorie des Staats- und Völkerrechts [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-3、3月1日
- Kraus, H., Gedanken über Staatsethos im internationalen Verkehr[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-3、3月1日
- 委任統治に関する紛争に対する国際司法裁判所の管轄権 [「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-4、4月1日
- Stoyanovsky, J., The mandate for Palestine [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-4、4月1日
- Redslob, Théorie de la Société des Nations [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-4、4月1日
- 正義外交への進出を説く『外交時報』584、4月1日

国際裁判と調停との有機的結合『国際法外交雑誌』28-4、5、4月1日、5月1日

委任統治の国際義務—マプロマチス事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-5、5月1日

委任統治に関する国際司法裁判所の管轄権の範囲[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-5、5月1日

合衆国の国際司法裁判所加入問題の展望『国際知識』9-5、7、5月1日、7月1日

不戦条約をめぐる仮装舞踏『帝国大学新聞』295、5月6日

不当な尚早論 治外法権撤廃問題『帝国大学新聞』300、6月10日

外国に対する民事裁判管轄権[「国際判例研究」]『国際法外交雑誌』28-6、7月1日

国際組織法の理論『法学協会雑誌』47-7、8、7月1日、8月1日[『国際法の基礎理論』収録]

世界戦争に基づく私人の損害賠償請求権の範囲[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

判決の解釈に関する裁判所の権限[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

Wilson, F., The origins of the League Covenant [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

Van Zanten, H., L'influence de la Partie XIII du Traité de Versailles sur le développement de droit international public et sur le droit interne des Etats [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

The problem of peace[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

Sukiennicki, La souveraineté des états en droit international moderne [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-7、9月1日

取り残される日本 国際司法裁判所強制裁判条項の受諾問題『帝国大学新聞』307、9月16日

Spiropoulos, Die allgemeinen Rechtsgrundsätze im Völkerrecht [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

Le Fur, L. et Chklaver, G., Recueil de textes de droit international public [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

Strupp, K., Rechtsfälle aus dem Völkerrecht [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

Bassett, J. S., The League of Nations [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

Mears, E. G., Resident Orientals on the American Pacific coast [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

Duboscq, A., Le problème du Pacifique [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

条約の解釈に関する管轄権の範囲 [「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-8、10月1日

現代外交に於ける中心問題を提示—米田実氏著『太平洋問題』—『帝国大学新聞』310、10月8日

条約の抽象的解釈—国内法の解釈—権利の濫用—申立の形式[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』28-9、11月1日

国際強制裁判の展望—裁判所規定任意条項の受諾問題—『国際知識』9-11、11月1日

条約の適用に関する紛争の管轄権と賠償に関する紛争[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』

誌』28-10、12月1日

Butler, G., and MacCoby, S., The development of international law [「紹介」]『国際法外交雑誌』28-10、12月1日

Donaldson, J., International economic relations[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-10、12月1日

Brailsford, H. N., Olives of endless age[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-10、12月1日

Déak, F., The Hungarian-Rumanian land dispute[「紹介」]『国際法外交雑誌』28-10、12月1日

1930(昭和5)年

軍縮の政治原理 ロンドン会議の一考察『帝国大学新聞』338、5月5日

ロンドン協定の結果を斯く見る 日本にとっては寧ろ成功『山陽新報』5月7、8日

安全保障問題の謎—ロンドン会議の一考察—『外交時報』612、6月1日

ロンドン会議と潜水艦使用法規『国際法外交雑誌』29-6、7月1日

芦田均『君府海峡通航制度史論』[「紹介」]『国際法外交雑誌』29-6、7月1日

遠藤源六『国際法提要』改訂版[「紹介」]『国際法外交雑誌』29-6、7月1日

内部から見た倫敦会議『国際知識』10-7、7月1日

文字の末の効用—ロンドン会議閑話[「随想」]『法律時報』2-5・6、6月1日

外交的辞令[6月、『パリの奇跡』収録]

軍縮の基準『経済往来』5-7、7月1日

公海に於ける船舶衝突事件の裁判管轄権[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』29-7、9月1日

新しい事実も注意[「講評と研究」]『受験界』11-9、9月1日

特権階級の暴を極むる枢密院『帝国大学新聞』351、9月15日

判決の意義に関する紛争[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』29-8、10月1日

Kunz, J. L., Die Staatenverbindungen[「紹介」]『国際法外交雑誌』29-8、10月1日

Adair, E. R., The extritoriality of ambassadors in the sixteenth and seventeenth centuries[「紹介」]『国際法外交雑誌』29-8、10月1日

標準的な国際法原論 立博士著『平時国際法論』『帝国大学新聞』356、10月20日

不法行為に基づく損害賠償の性質と範囲[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』29-9、11月1日

立作太郎『平時国際法論』[「紹介」]『国際法外交雑誌』29-9、11月1日

基本原則の再吟味に進出する国際法学界[「一九三〇年の法学界回顧」]『法律時報』2-12、12月1日

言語上の少数者[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』29-10、12月1日

ロンドン会議の感想[「書齋・雑談」]『緑会雑誌』4、12月15日

1931(昭和6)年

- 貨幣の価値の下落と国債の支払[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』30-1、1月1日
- オーデル河の国際管理[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』30-2、2月1日
- League of Nations : Ten years of world co-operation,1930[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-2、2月1日
- Williams, J. F., Chapters on current international law and the League of Nations,1929[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-2、2月1日
- Meulen, J. T., Der Gedanke der Internationalen Organisation in seiner Entwicklung,1929[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-2、2月1日
- 法律における当為と存在 美濃部教授のケルゼンの批評に対して『国家学会雑誌』45-2、3、2月1日、3月1日[「純粋法学論集Ⅰ」収録]
- 条約の廃棄と権利保全の仮措置 [「国際司法裁判所命令研究」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- 損害賠償の支払いと権利保全の仮措置[「国際司法裁判所命令研究」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- Wright, Q., Mandates under the League of Nations ,1930[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- Maanen-Helmer, Elizabeth van, The mandates system in relation to Africa & the Pacific Islands,1929[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- Margalith A. M., The international mandates,1930[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- Le Gall, R., Le Pacte de Paris du 27 août,1928[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- Strupp, K., Die Schiedsgerichts-, Gerichts- u. Vergleichsverträge des Deutschen Reiches,1929[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-3、3月1日
- 裁判所の評議の結果の非公式発表[「国際司法裁判所命令研究」]『国際法外交雑誌』30-4、4月1日
- 国際連盟事務局編『連盟政治の現勢』[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-4、4月1日
- Hold-Ferneck, A., Lehrbuch des Völkerrechts, I ,1930[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-4、4月1日
- Feinberg, N., La juridiction de la Cour permanente de justice internationale dans le système des mandats [「紹介」]『国際法外交雑誌』30-4、4月1日
- 戦争の絶対的禁止—最近の連盟規約改正案—『外交時報』632、4月1日
- 国際犯罪としての戦争『法学志林』33-4、5、4月1日、5月1日[「国際法論集Ⅱ」収録]
- ヨーロツバ連合の国際政治的意義『帝国大学新聞』381、4月20日
- 非法律的解決と裁判所[「国際司法裁判所命令研究」]『国際法外交雑誌』30-5、5月1日
- 国際法学における一つの完成と一つの試み[「新刊批評」]『法律時報』3-6、6月1日
- 立作太郎『戦時国際法論』[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-6、7月1日
- ル・ヒュール、バウンド、フェアドロス『国際法の基本問題』(大沢章、野見沢温訳)[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-6、7月1日
- Moore, J. B., International adjudications[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-6、7月1日
- Kiesselbach, Problems of the German-American Claims Commission,1939[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-6、7月1日

- 湖畔の古城アンヌスイ[「世界の涼は何処に 本学教授に聞く」]『帝国大学新聞』394、7月13日
- 労働総会の労働代表の選出方法[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』30-7、9月1日
- 法律の妥当性 美濃部教授に答えて『国家学会雑誌』45-9~11、9月1日、10月1日、11月1日[『純粋法学論集I』収録]
- 連盟規約十二講『国際知識』11-9、10、12-2~10、12、9月1日、10月1日、1932年2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、12月1日
- 農業労働と国際労働機関[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』30-8、10月1日
- 生産手段と国際労働関係[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』30-8、10月1日
- ケルゼンの一般法律理論『法律時報』3-10、10月1日[加筆して『ケルゼンの純粋法学 並、その国家・政治理論』(大畑書店、1932年)収録]
- 答案様式に就て[「講評と研究」]『受験界』12-10、10月1日
- 満州事変と国際連盟—寧ろ当然の干渉—『帝国大学新聞』400、10月5日[『日本平和論体系11』(日本図書センター、1994年)収録]
- 法律の妥当性『哲学雑誌』537、11月1日
- 国内事項と国籍[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』30-9、11月1日
- 松平康東『日本の条約国際法』[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-9、11月1日
- モワア『国際政治』Mower, E. O., *International government*, 1931[「紹介」]『国際法外交雑誌』30-9、11月1日
- 満州事変で気づかれた国際連盟[「早わかり講座」]『文芸春秋』9-11、11月1日
- 国際連盟による国際紛争の解決『国際知識』11-11、11月1日

1932(昭和7年)

- 非連盟国と裁判所意見[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-1、1月1日
- 連盟理事会による少数者の保護[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-2、2月1日
- 軍縮会議の序幕—各国の主張の検討『帝国大学新聞』421、2月29日
- 少数者の国籍と連盟の保障[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-3、3月1日
- リンゼー『国際裁判所』(Lindsey, Ed., *The international court*, 1931)[「紹介」]『国際法外交雑誌』31-3、3月1日
- ハビヒト『戦後の国際紛争平和的処理条約』(Habicht, *Post-War treaties for the pacific settlement of international disputes*, 1931)
- マツクネーア『国際判例年集』(McNair and Lauterpacht, *Annual digest of public international law cases 1827-1928*, 1931)
- 国際連盟による満州事変の処理—規約第十一条か第十五条か—『外交時報』656、4月1日
- 満州事件と国際法『国際法外交雑誌』31-4、4月1日
- 純粋国際法学の基礎理論—大沢章『国際法秩序論』—[「新刊批評」]『法律時報』4-4、4月1日

連盟脱退論[「文明批評」]『時事新報』4月5～7日

国際不法行為としての戦争『法学協会雑誌』50-5、5月1日[『国際法論集II』収録]

世界大戦に基づく新国家の国境の画定[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-5、5月1日

不戦条約に骨を入れる『フーヴァー主義』『帝国大学新聞』432、5月16日

新国家の国境の画定[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-6、7月1日

法律的積極主義 牧野教授の批評に答えて『国家学会雑誌』46-7、8、7月1日、8月1日[『純粋法学論集I』収録]

条約の国内法に及ぼす効果[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-7、9月1日

ダンチッヒの連盟高等委員の職能[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-8、10月1日

純粋法学の哲学的基礎 黒田覚訳『ケルゼン・自然法学と法実証主義』[「紹介」]『法学協会雑誌』50-11、11月1日[[『純粋法学』(勁草書房、1957年)収録]

連盟理事会の拘束力のある決定[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-9、11月1日

座談会 大学教授のリットン報告検討『文芸春秋』10-12、11月1日[10月6日於浪華家。出席者：土方成美、神川彦松、松本重治、高柳賢三、上田貞次郎、蠟山政道]

連盟規約の実証的研究 Ray, J., *La politique et la jurisprudence de la S. D. N.*, 1932[「紹介」]『国際法外交雑誌』31-10、12月1日

国際司法裁判の十年 鈴木修次訳『世界法廷の十年』[「紹介」]『国際法外交雑誌』31-10、12月1日

国際労働機関と使用者の労働の規律[「国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』31-10、12月1日

*連盟規約の法律的研究『国家試験』4-12、月日未詳

1933(昭和8)年

満州事件とフーヴァー主義『国際法外交雑誌』32-1、1月1日

何処へ行く？一九三三年の国際連盟『帝国大学新聞』460、1月1日

満州事変を裁く規約第十五条『中央公論』48-1、1月1日

不侵略条約の本質『外交時報』674、1月1日

国際法・国際政治問題の基礎的研究 立教授著『国際連盟規約論』『帝国大学新聞』464、1月30日

公民講座 不侵略条約と世界の大勢[「ラヂオ」]『東京朝日新聞』2月27日

ダニューブ川ヨーロッパ委員会の権能[「常設国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』32-3、3月1日

連盟規約の法律的研究・立作太郎『国際連盟規約論』[「新刊批評」]『法律時報』5-3、3月1日

最近の国際情勢[客間開放の会]『婦人之友』27-3、3月1日[2月8日於蠟山政道邸。出席者：蠟山政道、円地与四松、福岡誠一、清沢洌、浦松佐美太郎・同夫人]

危機を孕む規約第十五条四項『経済往来』8-3、3月1日

連盟脱退その後に来るもの『家庭週報』1168、3月10日

- 条約と個人の権利義務[「常設国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』32-4、4月1日
- 連盟脱退の後に来るもの[「今月の問題」]『婦人之友』27-4、4月1日
- 来るべき外交の一指針 オランダの裁判調停条約『帝国大学新聞』478、5月1日
- スティムソン主義と世界の大勢『中央公論』48-5、5月1日
- 唯物史観から見た一般法律理論 Kelzen, Allgemeine Rechtslehre im Lichte materialischer Geschichtsauffassung Archiv für Sozialwissenschaft u. Sozialpolitik, 66 Bd., 1931, SS.449-521[「紹介」]『国家学会雑誌』47-5、5月1日[「純粋法学と唯物史観法理論 Kelzen, Allgemeine Rechtslehre im Lichte materialischer Geschichtsauffassung (Archiv für Sozialwissenschaft u. Sozialpolitik, Bd. 66, 1931, SS.449-521)の解説」と改題、『純粋法学論集 I』収録]
- 連盟脱退の結果に就て『経済倶楽部講演』25、5月26日
- 問題を回避するなかれ—京大事件の解決について—『帝国大学新聞』485、6月19日[『現代史資料 42 思想統制』(みすず書房、1976年)収録]
- 裁判所の管轄権の決定者[「常設国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』32-6、7月1日
- アジア・モンロー主義批判『中央公論』48-7、7月1日
- 純粋法学の実際的機能『国家学会雑誌』47-7、7月1日[『純粋法学』(勁草書房、1957年)、『純粋法学論集 I』収録]
- 京大問題を真に解決する道『中央公論』48-8、8月1日
- 条約と国内法との関係[「常設国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』32-7、9月1日
- 『戦争防止法』Barandon, P., Das Kriegsverhütungsrecht des Völkerbundes, 1933[「紹介」]『国際法外交雑誌』32-7、9月1日
- 無人島先占論『中央公論』48-9、9月1日
- 歴史的意義を有つ津侵略定義国条約『外交時報』691、9月15日
- ダンチッヒ自由市と国際労働機関[「常設国際司法裁判所意見研究」]『国際法外交雑誌』32-8、10月1日
- 独逸の脱退と現政局 脱退の後に来るもの『帝国大学新聞』498、10月23日
- 上部シレジアの少数者学校の事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』32-9、11月1日
- シュミット『常設国際司法裁判所判例法』Schmid, Karl, Die Rechtsprechung des Ständigen internationalen Gerichtshofs in Rechtsstätzen dargestellt, 1932[「紹介」]『国際法外交雑誌』32-9、11月1日
- 国際日本の現実『文芸春秋』11-12、12月1日[座談会：風見章、神川彦松、小島精一、高木友三郎、千葉雄次郎、芦田均、筒井潔]
- 平和の準備—平和記念日の十五周年を迎えて—『国際知識』13-12、12月1日
- ドイツ＝オーストリア関税連合の事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』32-10、12月1日
- Some considerations on the future reconstruction of peace machinery in the Pacific[共同執筆：高木八尺]『国際法外交雑誌』32-10、12月1日
- Si vis pacem para bellum と Si vis pacem para pacem 『緑会雑誌』5、12月9日

京大事件を顧みる 前京大七教授共編『京大事件』を読んで『帝国大学新聞』505、12月11日[『現代史資料 42 思想統制』(みすず書房、1976年)収録]

A security pact for the Pacific area 『Contemporary Japan』2-3、12月

1934(昭和9)年

安全保障問題 『国際法外交雑誌』33-1、月1日

国際連盟の没落? 『中央公論』49-1、1月1日

京大訣別論文集 元京大助教授、講師、助手共著 『帝国大学新聞』509、1月15日

リストニアとポーランドの鉄道運輸に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』33-2、2月1日

京大訣別記念法学論文集[「紹介」] 『法学協会雑誌』52-2、2月1日

法と経済 立命館大学発行[「紹介」] 『法学協会雑誌』52-2、2月1日

国際法の客観的研究 『国家試験』6-3、2月1日

ダンチッヒ港におけるポーランド軍艦の入港・碇泊に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』33-4、4月1日

一九三二―三三年の国際法学界[「海外公法政治学事情」] 『国家学会雑誌』48-4、4月1日

国際連盟と帝国主義外交史の研究 立教授還暦祝賀論文集の編輯者の言葉 『帝国大学新聞』525、4月23日

『時局国際法論』[「読書頁」] 『東京朝日新聞』4月28日

ダンチッヒにあるポーランド人の取扱に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』33-5、5月1日

立作太郎 『時局国際法論』[「紹介」] 『国際法外交雑誌』33-5、5月1日

立教授還暦祝賀 『国際法論文集』『外交史論文集』[「紹介」] 『国際法外交雑誌』33-5、5月1日

田岡良一 『国際法学大綱』(上巻)[「紹介」] 『国際法外交雑誌』33-5、5月1日

田岡良一著、国際法学大綱上巻[「紹介」] 『法学協会雑誌』52-5、5月1日

立教授還暦祝賀 『国際法論文集』『外交史論文集』[「紹介」] 『法学協会雑誌』52-5、5月1日

ロシアの連盟加入問題 『帝国大学新聞』527、5月7日

スティムソン主義の新発展 『外交時報』708、6月1日

ロシアの連盟加入問題 『国際知識』14-6、6月1日

ナチス外交の悲喜劇[「妖怪・ナチスの脅威」] 『中央公論』49-6、6月1日

ロシアの連盟加入問題 国際事情からみて相当真剣味はある 『朝鮮公論』22-6、6月1日

*国際連盟を中心とした世界の大勢 『黎明』6月

一九二七年のギリシア＝ブルガリア協定事件[「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』33-6、7月1日

- ソヴェト外交の転向『中央公論』49-7、7月1日
- カージク『国際法における統制』Kasik, N., *Le contrôle en droit international*, 1933[紹介]『国家学会雑誌』48-8、8月1日
- 上部サヴォアとチェクスの自由地帯に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』33-7、9月1日
- 法の一般原則—国際裁判の一般準則として『法と経済』2-3、5、9月1日、11月1日[「国際法と法の一般原則」と改題、『国際法の基礎理論』収録]
- スティムソン主義の国際法化『国際法外交雑誌』33-8、10月1日
- D'Astrog, *La neutralité et son réveil dans la crise de la Société des Nations*, 1938[紹介]『国際法外交雑誌』33-8、10月1日
- ソヴェトの役割—国際連盟に加入して『帝国大学新聞』543、10月1日
- 国際裁判の準則『法学協会雑誌』52-10、12、10月1日、12月1日
- メーメル領域規定の解釈に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』33-8、9、10月1日、11月1日
- 連盟加入後のロシアの動向[「ロシア恐れるに足らず」]『中央公論』49-12、11月1日
- 独裁政治と少数民族の反発[「ユーゴスラビヤ国王暗殺せらる！」]『経済往来』9-11、11月1日
- 女子の夜間労働に関する条約の解釈に関する件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』33-10、12月1日
- 審査私感の一二[「講評と研究」]『受験界』15-12、12月1日
- 法律の解釈『国家学会雑誌』48-12、49-1、2、12月1日、1935年1月1日、2月1日[『純粹法学論集 I』収録]
- 戦の前夜[「庭球仙台遠征記」]『緑会雑誌』6、12月10日

1935(昭和10)年

- ソ連と国際連盟[「名流時言」]『朝鮮公論』23-1、1月1日
- いわゆる国際危機の展望[「三五・六年の危機を分析する」]『帝国大学新聞』556、1月1日
- 東部グリーンランドの法的地位に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-1、1月1日
- 軍縮の基礎条件『改造』17-1、1月1日
- 一九三五・六年の危機検討座談会『文芸春秋』13-1、1月1日[1934年12月4日於芝公園浪華家。出席者：小野武夫、芦田均、高橋亀吉、田中耕太郎、平田晋策、佐々弘雄、斎藤龍太郎]
- 東南部グリーンランドの法的地位に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-2、2月1日
- Davis, *The Soviets at Geneva*, 1934[紹介]『国際法外交雑誌』34-2、2月1日
- Berdahl, *Policy of the United States with respect to the League of Nations*, 1932[紹介]『国際法外交雑誌』34-2、2月1日

World Court reports, a collection of the judgments, orders and opinions of the Permanent Court of International Justice Vol. I, 1922-1926, ed. by M. O. Hudson, 1934[「紹介」]『国際法外交雑誌』34-2、2月1日

ポーランドの農業改良とドイツ系少数者に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-3、3月1日

プレス公の財産管理に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-3、3月1日

カルテロリゾ島とアナトリア海岸の間の領海の限界に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-3、3月1日

ハンガリー＝チェコ混合仲裁裁判所の判決に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-3、3月1日

国家の研究(京城帝国大学法学会論集第七冊) 特に、尾高朝雄『国家に於ける法と政治』について[「紹介」]『国家学会雑誌』49-3、3月1日

独逸の再軍備宣言『帝国大学新聞』570、3月25日

ハンガリー＝チェコ混合仲裁裁判所の判決に関する事件(ペテル・パズマニー大学の事件)[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-4、4月1日

フランス＝ギリシャの燈台に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-5、5月1日

ヘルツ『国際法上の侵略』Herz, Das Problem des völkerrechtlichen Angriffs, 1935[「紹介」]『国際法外交雑誌』34-5、5月1日

法学と政治との統合『経済往来』10-6、6月1日

日ソ関係の整調について『国際評論』4-6、6月1日

日・和の国際裁判条約 平和の尊重確保のための表現『帝国大学新聞』581、6月10日

東欧ロカルノ条約の展望『外交時報』733、6月15日

The Russo-Japanese non-aggression pact 『Contemporary Japan』4-1、6月

オスカー・チンに関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-6、7月1日

高原・鎔夏・閑談－軽井沢組教授の集ひ『帝国大学新聞』587、8月5日[座談会：蠟山政道、市河三喜、河合栄治郎、丹羽重光、我妻栄、山田文雄]

アルバニアの少数者学校に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-7、9月1日

ケルゼン『司法手続と国際秩序』Kelsen, The legal process and international order, 1935[「紹介」]『国際法外交雑誌』34-7、9月1日

伊・エ紛争における国際連盟の役割『帝国大学新聞』591、9月23日

法律哲学の課題『理想』58、10月1日[『純粋法学論集Ⅱ』収録]

選挙肅正の国民的自覚『改造』17-10、10月1日

カリフォルニア布教基金事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-8、10月1日

日本とオランダの裁判調停条約『国際法外交雑誌』34-8～10、10月1日、11月1日、12月1日

- 職業野球論[「スポーツ精神(?)の矛盾」]『帝国大学新聞』596、10月28日
- ヴェネズエラ債務優先権事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-9、11月1日
- クーバー『国際事件とアメリカの協議』Cooper, R. M., American consultation in world affairs : for the preservation of peace, 1934 [「紹介」]『国際法外交雑誌』34-9、11月1日
- ハドソン編『世界裁判所判例集』(第二卷) World Court reports, Vol. II, 1927-1932, ed. by M. O. Hudson, 1935 [「紹介」]『国際法外交雑誌』34-9、11月1日
- イタリーに対する国際連盟の制裁『国際評論』4-11、11月1日
- 憲法の国際化—国際法から見たスペインの新憲法—『公法雑誌』1-11、12、11月5日、12月5日
- 国際制裁論『改造』17-12、12月1日
- 日本の家屋税事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』34-10、12月1日 [「日本の家屋税に関する事件」と改題『国際法論集1』収録]

1936(昭和11)年

- 安危の岐路・軍縮会議 永久的意義を有する対伊制裁『帝国大学新聞』606、1月1日
- マスカット土人船事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-2、2月1日
- ハドソン『平和的手段によって』Manley O. Hudson, By pacific means, 1935 [「紹介」]『国際法外交雑誌』35-2、2月1日
- 混乱の欧州政局『帝国大学新聞』611、2月10日
- 僕の一票『帝国大学新聞』613、2月24日
- カサブランカ事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-3、3月1日
- 武内辰治『日本の戦争と外交』Takeuchi, War and Diplomacy in the Japanese Empire, 1935 [「紹介」]『国際法外交雑誌』35-3、3月1日
- 太平洋平和協議の提唱—軍縮会議脱退の善後策として—『中央公論』51-3、3月1日
- 国際裁判の本質—特にその確定の方法について『国家学会雑誌』50-3~6、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日
- 国際情勢の展望『朝鮮及満洲』340、3月8日
- グリスバダルナ事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-4、4月1日
- 北大西洋沿岸漁業事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-5、5月1日
- フランスの総選挙 ヨーロッパ政局への反響『帝国大学新聞』625、5月11日
- フランスの総選挙からヨーロッパ政局の展望『国際評論』5-6、6月1日
- エチオピア帝国の滅亡『中央公論』51-6、6月1日
- アメリカ合衆国の中立法案『外交時報』758、7月1日
- 伊・エ紛争の終了—特に連盟総会の決議について—『国際評論』5-8、8月1日
- オリノコ汽船会社事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-7、9月1日

スペインの内乱と不干渉協定[「時論」]『国際法外交雑誌』35-8、10月1日

サヴァルカー事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-8、10月1日

スペイン動乱をめぐる紛糾の全ヨーロッパ政局『日本評論』11-10、10月1日

スペイン革命を繞りて『改造』18-10、10月1日[座談会：青木新、木村毅、布利秋、町田梓楼、美濃部亮吉]

カネヴァロ事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-9、11月1日

純粋法学の哲学的基礎『国家学会雑誌』50-11、11月1日[『純粋法学論集Ⅰ』収録]

戦争防止の中立法案『文芸春秋』14-11、11月1日

学者のフェアプレイ[「法律時評」]『法律時報』8-11、11月1日

中立法の変化[「法律時評」]『法律時報』8-11、11月1日

作文にして[「わが家」]『婦人之友』30-11、11月1日

昏迷の欧州政局 右翼ブロックの挑戦的進出『帝国大学新聞』645、11月2日

日独『提携』に驚く[「国際防共協定成る」]『帝国大学新聞』650、11月30日

スペイン内乱の国際的波紋『中央公論』51-12、12月1日

ロシア賠償事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』35-10、12月1日

見物人の会話『緑会雑誌』8、12月5日

1937(昭和12)年

紛乱の後に来るもの 破局か？転向か？[「世界政治経済の動向」]『帝国大学新聞』654、1月1日

カルタージュ号事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-1、1月1日

ケルゼン著、一般国家学(清宮四郎訳、昭和一年)[「紹介」]『法学協会雑誌』55-1、1月1日

日本の国際的地位[「日独協定批判」]『改造』19-1、1月1日

国際ブロック政策論[「日本外交批判」]『中央公論』52-1、1月1日

マヌーバ号事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-2、2月1日

*日独防共協定について『青年教育』168、2月1日

恒藤教授『法の基本問題』[「新刊批評」]『法律時報』9-2、2月1日

ティモル島事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-3、3月1日

外交一新の目標『中央公論』52-4、4月1日

全米平和機構の発展『国際知識及評論』17-4、4月1日

ポルトガルの教会財産の没収に関する事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-4、4月1日

法律を教へる人の用意と学ぶ者の注意[「法学教育をめぐつて」]『法律時報』9-4、4月1日

裁判理念型と国際裁判『法学協会雑誌』55-4、5、4月1日、5月1日

- 国際社会の原理—その理論的構成と実践的意味『改造』19-5、5月1日
- 日本政治の特殊性を検討する座談会『文芸春秋』15-5、5月1日[座談会：石浜知行、大森義太郎、向坂逸郎、丸山幹治、三木清、御手洗辰雄、佐々弘雄][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]
- 永代借地制度の廃止『外交時報』779、5月15日
- 信念教育の妄 禍根は果して知育偏重か『帝国大学新聞』675、5月24日
- ペルーに対するフランス人債権の事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-6、7月1日
- 義務的裁判の理念型『国家学会雑誌』51-7、8、7月1日、8月1日
- 立作太郎「現実国際法諸問題」(国際法学叢書第一巻)[紹介]『国家学会雑誌』51-8、8月1日
- 立作太郎『現実国際法諸問題』(国際法学叢書第一巻)[「紹介」]『国際法外交雑誌』36-7、9月1日
- 田岡良一『空襲と国際法』[「紹介」]『国際法外交雑誌』36-7、9月1日
- アメリカのノルウェー船徴発事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-7、9月1日
- 田岡良一著『空襲と国際法』[「紹介」]『法学協会雑誌』55-9、9月1日
- ソヴェート国際法概論(パシユカーニス著山之内一郎訳)[「新刊批評」]『法律時報』9-9、9月1日
- アメリカの中立法 戦争回避・孤立政策への推移『帝国大学新聞』687、9月27日
- パルマス島事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-8、10月1日
- 田岡良一著『空襲と国際法』[「読書頁」]『東京朝日新聞』10月18日
- 国際審査委員会報告の研究について[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-9、11月1日
- 北海のイギリス漁船砲撃事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-9、11月1日
- 九国条約会議と日本『改造』19-14、12月1日
- タヴィニアノ号、カムーナ号、ゴーロア号事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』36-10、12月1日
- 世界における英国の地位『日本評論』12-14、12月5日

1938(昭和13)年

- チェバンチア号事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』37-1、1月1日
- シェヴロー事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』37-2、2月1日
- 悪文の弁『岩波月報』25、2月5日[『パリの奇跡』収録]
- グスタフ・アドルフ号とパシフィック号事件[「常設仲裁裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』37-3、3月1日
- ダンチッヒ法令の憲法違反の事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』37-4、4月1日
- Wheaton., Elements of international law, ed., by G. G. Wilson, 1936[「紹介」]『国際法外交雑誌』37-4、4月1日
- Bustamante, Droit international public, t. IV, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』37-4、4月1日

Macartney, Hungary and her successors, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-4、4月1日

Martelli, Italy against the world, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-4、4月1日

「衡平と善」による裁判 『法学協会雑誌』 56-5、5月1日

Le Fur, *Precis de droit international public*, 3e ed., 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-5、5月1日

Shotwell, At the Paris Peace Conference, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-5、5月1日

Ball, M., Post-war German-Austrian relations(1819-1936), 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-5、5月1日

Gihl, International legislation, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-6、6月1日

Bentwich, Bustamante and others, Justice and equality in the international sphere, 1936 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-6、6月1日

Corbett, The settlement of Canadian-American disputes, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-6、6月1日

スポーツ愚問 『改造』 20-7、7月1日 [『パリの奇跡』収録]

Keller, Lissitzyn and Mann, Creation of rights of sovereignty through symbolic acts, 1400-1800, 1938 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-7、9月1日

Ritchie, The "Navicert" system during the world war [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-7、9月1日

League of Nations, National Control of the Manufacture of and Trade in Arms, 1938 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-7、9月1日

Mantoux, Rappard and others, The world crisis, 1938 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-7、9月1日

国際裁判と衡平 『法学協会雑誌』 56-9～11、9月1日、10月1日、11月1日

ユーゴスラヴア農業改革の事件 [「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』 37-8、10月1日

Puente, *Traité sur les fonctions internationales des consuls*, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-8、10月1日

Blaga, *L'evolution de la diplomatie : idéologie, moeurs et technique, t. I*, 1938 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-8、10月1日

Balogh, *L'action de la Société des Nations en matière de protection des minorités*, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-8、10月1日

Herre, *Die kleinen Staaten Europas und die Entstehung des Weltkrieges*, 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-8、10月1日

欧州危機の真相 『帝国大学新聞』 734、10月3日

ロサンジェ会社事件 [「常設国際司法裁判所判例研究」] 『国際法外交雑誌』 37-9、11月1日

Balasko, A., Causes de nullité de la sentence arbitrale en droit international public 1938 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-9、11月1日

Berlia, G., *Essai sur la portée de la clause de jugement en équité en droit des gens* 1937 [「紹介」] 『国際法外交雑誌』 37-9、11月1日

Markovitch, *Du caractère définitif des sentences arbitrales en droit international public*, 1937 [「紹介」]

- 介]『国際法外交雑誌』37-9、11月1日
- Griffin, The United States and the disruption of the Spanish Empire, 1810-1822, 1937 [「紹介」]『国際法外交雑誌』37-9、11月1日
- 有田外交[「窓外」]『新愛知[夕刊]』11月12日
- ベルギーの国際的地位—チェッコの将来の国際的地位への暗示—『外交時報』815、11月15日
- ミューズ河からの引水に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』37-10、12月1日
- von Mandelsloh, Politische Pakte und völkerrechtliche Ordnung, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』37-10、12月1日
- Mandelstam, Le conflit italo- éthiopien devant la S. D. N., 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』37-10、12月1日
- 佐々木博士記念論文集『国家及法律の理論』[「紹介」]『国家学会雑誌』52-12、12月1日
- 鷲[「研究のかたはら」]『緑会雑誌』10、12月10日

1939(昭和14)年

- クリート島とサモス島の燈台に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-1、1月1日
- Aydelotte, Bismarck and British colonial policy, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-1、1月1日
- D'Auvergne, Envoys extraordinary, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-1、1月1日
- Conferencias internacionales americanas, 1889-1936, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-1、1月1日
- 法的紛争の概念『国際法外交雑誌』38-1～6、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、7月1日
- 望郷を見る[大塚三郎署名]『帝国大学新聞』750、1月23日[『パリの奇跡』収録]
- 地中海問題[「窓外」]『新愛知[夕刊]』1月28日
- ボルググラーヴ事件(管轄権)[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-2、2月1日
- 立作太郎『支那事変国際法論』[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-2、2月1日
- Scott and Jeager, Cases in international law, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-2、2月1日
- Boveri, M., Mediterranean cross-currents, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-2、2月1日
- Michel, P. H., La question de l'Adriatique (1914-1918), recueil de documents, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-2、2月1日
- 議会と外交[「窓外」]『新愛知[夕刊]』2月26日
- Strupp, Bibliographie du droit des gens et des relations internationales, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-3、3月1日
- チエツコ滅ぶ[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月24日

国際法の法的性質『国家学会雑誌』53-4、5、4月1日、5月1日[『国際法論集I』収録]

思ひ出となつたテニス・プレー『帝国大学新聞』761、4月10日

米国の役割[「窓外」]『新愛知[夕刊]』4月25日

モロッコの燐酸塩事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-5、5月1日

Gunzer, Die Grundrechte des Völkerrechts, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-5、5月1日

Ruffini, L'ent'aide dans l'application des sanctions, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-5、5月1日

欧州危局への打診『改造』21-5、5月1日[4月6日於東京会館。出席者：聴涛克己、城戸又一、伍堂卓雄、堀井邑一、益田豊彦、矢部貞治]

軍事同盟論[「時評」]『エコノミスト』17-13、5月1日

英米の提携[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月24日

岡田良一『国際法大綱』下巻[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-6、6月1日

安井郁『国際法学講義要綱』一卷[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-6、6月1日

Sandifer, Evidence before international tribunals, 1939[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-6、6月1日

Gramsch, Die Billigkeit im Recht, 1938, 72 S.[「新刊紹介」]『法学協会雑誌』57-6、6月1日

国際法学の理念的考察『知性』2-6、6月1日

嵐の前の小康[「窓外」]『新愛知[夕刊]』6月15日

租界問題[「窓外」]『新愛知[夕刊]』7月5日

日英会談[「窓外」]『新愛知[夕刊]』8月3日

パネヴェジス・サルツキキス鉄道事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-7、9月1日

欧州の危機と米国の動向『改造』21-9、9月1日

国際信義[「窓外」]『新愛知[夕刊]』9月15日

ソ連の正体[「窓外」]『新愛知[夕刊]』9月27日

戦争と国際法『改造』21-11、9月28日

欧州戦乱に直面する日本外交『文芸春秋』17-19、10月1日[9月8日座談会：鹿島守之助、中野正剛]

ソフィア電気会社に関する事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-8、10月1日

海戦と空戦における中立国の権利義務に関する条約案[「資料」]『国際法外交雑誌』38-8、10月1日

R. B. Stewart, Treaty relations of the British Commonwealth of Nations, 1939[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-8、10月1日

D'Astorg, B., La neutralite et son reveil dans la crise de la S. D. N, 1939[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-8、10月1日

米國中立法の修正—その動機と効果—『帝国大学新聞』781、10月9日

米國中立法修正の意義『外交時報』837、10月15日

バルカンの形勢[「窓外」]『新愛知[夕刊]』11月1日

- ベルギー商社事件[「常設国際司法裁判所判例研究」]『国際法外交雑誌』38-9、11月1日
- Morrissey, The American defence of neutral rights, 1914-1917, 1937[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-9、11月1日
- 戦争と国際法—その法論理的関係—『法律時報』11-11、11月1日
- 米国の積極的極東政策『中央公論』54-12、11月1日
- Bullock, Germany's colonial demands, 1939[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-10、12月1日
- Lloyd George, The truth about the peace treaties, 2 vols., 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』38-10、12月1日
- 前大戦の教訓[「窓外」]『新愛知[夕刊]』12月1日
- 漁夫の利[「窓外」]『新愛知[夕刊]』12月12日
- 岡松久弥著 国境の話『日本読書新聞』103、12月15日

1940(昭和15)年

- イギリスのドイツ貨物捕獲令[「時論」]『国際法外交雑誌』39-1、1月1日
- Freeman, The international responsibility of states for denial of justice, 1938[「紹介」]『国際法外交雑誌』39-1、1月1日
- 岡松久弥著「国境の話」[「紹介」]『国際法外交雑誌』39-1、1月1日
- 事変処理[「窓外」]『新愛知[夕刊]』1月14日
- 議会の外交論[「窓外」]『新愛知[夕刊]』2月22日
- 「新支那建設の具体策」座談会『文芸春秋』18-6、4月1日[座談会：大西齊、平貞蔵、土井章]
- ノルウェー侵入[「窓外」]『新愛知[夕刊]』4月20日
- 蚕食さる中立国 国際法を破る武力万能主義[「世界の動向」]『帝国大学新聞』808、4月22日
- 第二次欧州大戦の特異性『改造』22-9、4月30日
- 西部戦線異状[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月17日
- 欧州大戦と国際法の前途『東方公論』15-6、6月1日
- 集団的保障の再考察『国際知識及評論』20-6、6月1日
- 安全水域に関するパナマ宣言[「時論」]『国際法外交雑誌』39-6、7月1日
- 仏国の降伏とその将来『新愛知[夕刊]』7月2日
- ソヴィエト・ロシアの動向『外交時報』855、7月15日
- 新内閣の外交[「窓外」]『新愛知[夕刊]』7月30日
- 米国の参戦[「窓外」]『新愛知[夕刊]』10月2日
- 謎のソ連[「窓外」]『新愛知[夕刊]』10月15日
- 仲裁裁判の法的本質—その事実的考察—『国際法外交雑誌』39-9、11月1日

三選と参戦[「窓外」]『新愛知[夕刊]』11月5日

鈴木文史朗氏に欧州情勢を訊く『文芸春秋』18-15、12月1日[座談会：鈴木文史朗、芹沢光治良]

フランス敗れたり[「窓外」]『新愛知[夕刊]』12月4日

スケート[「趣味・スポーツ」]『緑会雑誌』12、12月10日

1941(昭和16)年

立ち遅れた民主両国 問題は米の対英援助『帝国大学新聞』838、1月1日

スエズ攻防戦[「窓外」]『新愛知[夕刊]』1月11日

野村大使を送る[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』1月30日

アメリカの駆逐艦譲渡[「時論」]『国際法外交雑誌』40-2、2月1日

Nikolitek, L'effet du contrôle parlementaire de la politique étrangère sur le développement du droit international, 1939 [「紹介」]『国際法外交雑誌』40-2、2月1日

Fenwick, American neutrality, trial and failure, 1940 [「紹介」]『国際法外交雑誌』40-2、2月1日

Oppenheim, International Law, vol. II, 6th. ed., 1940, ed. by Lauterpacht [「紹介」]『国際法外交雑誌』40-2、2月1日

Mackintosh, The paths that led to war, 1940 [「紹介」]『国際法外交雑誌』40-2、2月1日

アメリカの非中立的中立『外交時報』870、3月1日

事実は参戦[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月1日

現戦争におけるアメリカの地位—特に武器貸与法案をめぐる—『改造』23-6、3月2日

バルカンの戦火[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月11日

バルカンの戦火[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』3月11日

仏印、泰の調停[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月27日

日ソ中立条約の意義『現地報告』44、5月10日

イラク戦の意義[「窓外」]『新愛知[夕刊]』5月14日

イラク戦争の意義[「時観」]『河北新報[夕刊]』5月18日

グロチウスの正戦論『国家学会雑誌』55-6、6月1日[『国際法論集II』収録]

米国の参戦近し『新愛知[夕刊]』6月22日

独ソ開戦と日本『改造』23-14、7月2日

東部戦線膠着[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』8月9日

大戦長期化[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月4日

ドイツの態度[「窓外」]『新愛知[夕刊]』9月23日

ドイツの態度[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月26日

米独の危機と日本『改造』23-20、10月1日

米の中立法改正[「時観」]『合同新聞[夕刊]』10月30日

Tung, L., China and some phases of international law, 1940[「紹介」]『国際法外交雑誌』40-9、11月1日

米商船の武装[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』12月5日

審査の感想[公法懸賞論文「中立法の将来」の講評]『緑会雑誌』13、12月27日

1942(昭和17)年

戦争と国際法『改造』24-1、1月1日

アメリカ中立法の改正[「時評」]『国際法外交雑誌』41-1、1月1日

ソ連の地位[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月11日

国交断絶[「時評」]『国際法外交雑誌』41-3、3月1日

田岡良一『国際法』[「紹介」]『国際法外交雑誌』41-3、3月1日

現在の世界大戦と国際法『経済倶楽部講演』昭和17年第8輯、3月27日

リオ会議の成果[「時評」]『国際法外交雑誌』41-4、4月1日

非交戦状態の法理『法学協会雑誌』60-4、5、4月1日、5月1日

印度の情勢[「時観」]『合同新聞[夕刊]』4月12日

南洋諸国の動向『外交時報』897、4月15日

領事裁判法の改正[「時評」]『国際法外交雑誌』41-5、5月1日

中立の将来[1941年11月10日講演於海軍経理学校]『主計会報告』156、5月25日

北阿戦争[「時観」]『合同新聞[夕刊]』7月1日

ポリテイスの討[「時評」]『国際法外交雑誌』41-7、7月1日

日本と敵性諸国との関係[「時評」]『国際法外交雑誌』41-8、8月1日

尾高朝雄『実定法秩序論』『図書』79、8月5日

海[「時観」]『合同新聞[夕刊]』8月7日

英米ソ協定『国際法外交雑誌』41-9、9月1日

尾高朝雄『実定法秩序論』[「紹介」]『法学協会雑誌』60-9、9月1日

外務省に望む[「時観」]『合同新聞[夕刊]』9月19日

外交の意義[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』9月24日

高木八尺『米国東洋政策の史的考察』[紹介]『国家学会雑誌』56-10、10月1日

本格的長期戦[「時観」]『合同新聞[夕刊]』10月14日

敵を知ること[「時観」]『合同新聞[夕刊]』11月6日

敵を知ること[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』11月6日

地中海の風雲[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』12月2日

1943(昭和 18)年

- 支那の解放[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』1月22日
- ソ連の謎[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』2月26日
- ソ連の謎[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』2月26日
- ソ連の謎[「時観」]『合同新聞[夕刊]』2月27日
- 武装中立『国家学会雑誌』57-3、3月1日[『国際法論集Ⅱ』収録]
- 総力戦と国際法『外交時報』920、4月1日
- 序[「時評 第八一議会の外交・国際法問題の解説」]『国際法外交雑誌』42-5、5月1日
- 俘虜の取扱[「時評 第八一議会の外交・国際法問題の解説」]『国際法外交雑誌』42-5、5月1日
- 外交陣の強化[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』5月3日
- 反枢軸七不思議『帝国大学新聞』945、5月17日
- 高千穂丸事件[「時評」]『国際法外交雑誌』42-6、6月1日
- 立先生と国際法『外交時報』925、6月15日
- 比島の独立[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』6月25日
- 病院船の攻撃[「時評」]『国際法外交雑誌』42-7、7月1日
- 立先生の憶い出『外交評論』23-7、7月1日
- 欧州戦線の怪事件『朝鮮公論』改巻 2-8[通号 365]、8月10日
- 立先生のおもひで『緑会雑誌』15、9月15日
- 山本茂『条約改正史』[「紹介」]『国際法外交雑誌』42-12、12月1日

1944(昭和 19)年

- ブエノスアイレス丸事件[「時評」]『国際法外交雑誌』43-3、3月1日
- ポーランドの国境問題『外交時報』945、5月1日
- イギリスによる外交特権の停止[「時評」]『国際法外交雑誌』43-7、7月1日
- Britain's communication ban『Nippn Times』8月15日
- 反枢軸の戦後国際機構案[「時評」]『国際法外交雑誌』43-11、11月1日
- 広域法理に焦点 飛躍的發展の前夜[「課外講座 国際法」]『大学新聞』14、11月21日
- 反枢軸国の戦後機構案を批判す『大陸東洋経済』27、12月28日[11月25日座談会：神川彦松、清沢洌、高垣寅次郎、綿野脩三]

1945(昭和 20)年

- 戦争責任論『東京新聞』11月6、7日
- 国際連合加入への心構え 国際的に見た日本の将来について『大学新聞』44、11月11日

国際平和機構の躍進－国際連合憲章の研究－『法律時報』17-8、12月1日

1946(昭和21)年

無条件降伏と国体『国際法外交雑誌』[ポツダム宣言降伏文書研究号]45-1・2、1月1日

国際民主生活の原理『世界』1、1月1日[「国際民主主義の原理」と改題、『世界国家の問題』、愛知県高等学校教員組合名古屋地区国語科教育研究会編『近代の文学』(川瀬書店、1948年)、酒井哲哉編『平和国家のアイデンティティ』<リーディングス 戦後日本の思想水脈1>(岩波書店、2016年)収録]

戦争犯罪と国際法の革命『中央公論』61-1、1月1日[「国際法の革命」と改題、『世界国家の問題』収録。原題のまま『戦後思想の発露』<戦後日本思想大系 1>(筑摩書房、1968年)収録]

“日本的”民主主義『毎日新聞』1月1日

民主体制の強力展開『毎日新聞』1月1、3、4、6～9日(『[大阪]毎日新聞』1月1、3、4、6～8日)[座談会：安倍能成、水谷長三郎、賀賀義雄、室伏高信、美濃部亮吉、宮沢俊義]

花も実もある国際軍事裁判[談]『北国毎日新聞』1月25日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十一年版 I 公職追放』(新聞資料出版、1998年)収録]

国際軍事法廷論『東京新聞』2月3～5日

平和を指導するアメリカ『言論』1-2、2月20日

世界平和の展望－国際連合の発足にあたって－『外交評論』26-2、3月1日[「国際連合の将来」と改題、『世界国家の問題』収録]

人類のホープ・国際連合『女性新聞』1、3月1日

絶対平和の基礎条件『世界文化』1-2、3月1日

意義深い「戦争放棄」[談]『毎日新聞』3月9日(戦争放棄[談]『[大阪]毎日新聞』3月9日)[『新聞集成昭和編年史 昭和二十一年版 II 衆議院総選挙』(新聞資料出版、1998年)収録]

憲法改正案の基調『東京新聞』3月12、13日[「政府の憲法改正草案要綱に対する批判」<貴族院彙報付録>(貴族院事務局調査部、1946年4月)収録]

国際連合と国際連盟－その根本的差異『世界経済』1-3、3月15日

国際連合の展望－その発足にあたって『黄蜂』1-1、4月10日[「国際連合の発足」と改題、『世界国家の問題』収録]

Revised constitution does not renounce in self-defense 『Nippon Times』4月16日

憲法草案批判『月刊読売』4-6、5月1日[座談会：水谷長三郎、宮本顕治]

核心をつく A 級戦犯起訴状『東京新聞』5月1日

日本管理法令研究の辞[無署名]『日本管理法令研究』1、5月1日

日本の法的地位[「基本研究」]『日本管理法令研究』1、5月1日

日本管理の基本方式[「基本研究」]『日本管理法令研究』1、5月1日[「管理の基本方式」と改題、『連合国の日本管理－その機構と政策－』(大雅堂、1947年)収録]

概説[「法令解説」]『日本管理法令研究』1、5月1日

カイロ宣言[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』1、5月1日

ポツダム宣言[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』1、5月1日
編輯後記『日本管理法令研究』1、5月1日
新憲法と戦争放棄 実践については婦人に期待する『婦人朝日』1-4、5月1日
民主政治の意義と価値[3月12日NHK放送再録]『放送』6-4、5月1日
A級戦犯起訴状の批判『西日本新聞』5月3日
戦争放棄[「新憲法草案と平和国家の構想」]『言論』1-4、5月5日
ひらがな口語の憲法[5月、『バリの奇跡』収録]
日本管理の基本原則[「基本研究」]『日本管理法令研究』2、6月1日[「一般的基本原則」と改題、『連合国の日本管理—その機構と政策—』(大雅堂、1947年)収録]
概説[「法令解説」]『日本管理法令研究』2、6月1日
編輯後記『日本管理法令研究』2、6月1日
世界史的な戦争放棄—国際連合の理想境をゆく—『小天地』1-4、6月1日
民主人民戦線と天皇制『評論』4、6月1日
斬新なる主権の解釈[「Emery Revesの平和の解剖学 The anatomy of peace を読みて」]『日本読書新聞』349、6月12日
戦争犯罪の基本問題[「基本研究」]『日本管理法令研究』3、6月15日
戦争犯罪と罪刑法定主義[「基本研究」]『日本管理法令研究』3、6月15日
連合国最高司令官の権限に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』3、6月15日
南朝鮮の行政に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』3、6月15日
日本人に対する犯罪に関する通告[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』3、6月15日
編輯後記『日本管理法令研究』3、6月15日
極東軍事裁判の本格的審理始まる 横田教授にその意義を聞く『女性新聞』6、6月20日
日本社会党論『改造』27-7、7月1日
民主政治道德論『創造』16-7、7月1日
米・ソと国際連合『時論』1-7、7月1日[『世界国家の問題』収録]
世界における法の支配『新人』26-4、7月1日
民主政治の基礎『読書雑誌』1、7月1日
日本の教育制度の行政に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』4、7月1日
信教の自由に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』4、7月1日
教職員の調査、精選、資格決定に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』4、7月1日
編輯後記『日本管理法令研究』4、7月1日
*証人調べの感想『第一新聞』7月4日
*講和会議開く『第一新聞』8月1日

- 戦争の革命『国家学会雑誌』60-8、8月1日[『世界国家の問題』収録]
- 戦争放棄と日本の将来『進路』1-3、8月1日
- 国際連合『婦人朝日』1-7、8月1日
- 東京裁判と女性 日本更生の起点として『女性改造』1-3、8月1日
- ひらがな憲法 政治革命から文化革命へ[「文化」]『山形新聞』8月4日
- ひらがな憲法[「人民評論」]『夕刊新大阪』185、8月8日
- 日本管理政策と民主政治の前途 [「民主評論」]『夕刊ニイガタ』8月14日
- 教育の自由主義化[「基本研究」]『日本管理法令研究』5、8月15日[『連合国の日本管理—その機構と政策—』(大雅堂、1947年)収録]
- 美術品、記念物、及文化的並に宗教的地域、施設の保護に関する政策及手続に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』5、8月15日
- 編輯後記『日本管理法令研究』5、8月15日
- *賠償問題の解決『第一新聞』8月15日
- *議会と憲法改正『自由新聞』8月31日
- 国家神道(神社神道)に対する政府の保証、支援、保全、監督及弘布の廃止に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』6、9月1日
- 修身、日本歴史及地理の学科課程停止に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』6、9月1日
- 編輯後記『日本管理法令研究』6、9月1日
- 貴族院の策動 憲法の民主化に挑戦『労・農』3、9月1日
- 世界国家論『世界』9、9月1日[『世界国家の問題』収録]
- 原子力時代と日本の進路『言論』1-7、9月5日[座談会：仁科芳雄、岡邦雄、今野武雄]
- 戦争の放棄『国家学会雑誌』60-10、10月1日[国家学会編『新憲法の研究』(有斐閣、1947年10月1日)、『戦争の放棄』<文献選集日本国憲法3>(三省堂、1977年)収録]
- 欺瞞の国体論議[「随筆と短評」]『社会主義』1-1、10月1日
- 連合国の日本管理機構[「基本研究」]『日本管理法令研究』7、10月15日[「管理の一般機構」と改題、『連合国の日本管理—その機構と政策—』(大雅堂、1947年)収録]
- モスコウ会議コミュニケ[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』7、10月15日
- 日本の教育者委員会に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』7、10月15日
- 日本の測地学測量標の復活に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』7、10月15日
- 日本の教育制度の行政に関する一九四五年一〇月二二日付の連合国最高司令官の指令の適用に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』7、10月15日
- 極東国際軍事裁判所条例[「法令解説 司法篇」]『日本管理法令研究』7、10月15日
- 編輯後記『日本管理法令研究』7、10月15日
- 日本の国際的将来『社会主義』1-2、11月1日

主権抹殺論『社会』1-2、11月1日

文化国家の指標『西日本新聞』11月1～3日[座談会：長谷川如是閑、今中次麿、羽仁五郎]

戦争犯罪の裁判所[「基本研究」]『日本管理法令研究』8、12月1日

海洋観測に関する報告の要求に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』8、12月1日

天気予報の傍受に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』8、12月1日

編輯後記『日本管理法令研究』8、12月1日

*平和日本の前進『函館新聞』12月4日<函館市立図書館所蔵>

新憲法と平和立国[「基本研究」]『日本管理法令研究』9、12月15日

編輯後記『日本管理法令研究』9、12月15日

1947(昭和22)年

拒否権の問題『時代』2-1、1月1日[『世界国家の問題』収録]

二つの世界と平和の基礎[「民主評論」]『夕刊ニイガタ』1月10日

戦争抛棄と日本の将来『講演時報』526、1月10日

平和世界の建設『時代』2-2、2月1日[対談：高橋正雄]

A級戦争犯罪の起訴理由[「基本研究」]『日本管理法令研究』10、2月15日

外国人の日本入国と登録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』10、2月15日

略奪された財産の没収と報告に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』10、2月15日

特定人の財産の管理、没収及び封鎖に関する覚書[「法令解説 政治篇」]『日本管理法令研究』10、2月15日

合衆国連邦法、州法及び判決録の陳列室設置に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』10、2月15日

編輯後記『日本管理法令研究』10、2月15日

政治と学者『自由新聞』2月15日

*欧州に平和がよみがえる『みやこ新聞』2月15日

国語・国字問題に関する随想『社会』2-3、3月1日

平和条約の成立と日本[「講和条約締結の前提」]『潮流』2-3、3月1日

社会党と外交『社会思潮』1-3、4月1日

国際連合の話『少年読売』2-4、4月1日

世界と日本『世界文化』2-1、4月1日[座談会：来栖三郎、阿部賢一、馬場恒吾、坂本直道]

平和会議の展望『人民戦線』10・11、4月15日

日本所在財産の連合国人に対する返還手続に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』11、4月20日

アメリカ国民の行為と日本の法的手続に関する情報に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』11、4月20日

地図作製の要求に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』11、4月20日

復員軍人の教育就職に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』11、4月20日

編輯後記『日本管理法令研究』11、4月20日

*日本新憲法と国際関係『国際タイムス』4月29日

国際的人権宣言『時代』2-5、5月1日

*参議院選挙の感想『第一新聞』5月1日

国際日本への首途 平和の實踐を誓おう[「きょうに寄す」]『西日本新聞』5月3日

新憲法と国際関係[「文化」]『秋田魁新報』5月5日

新憲法と国際関係[「論壇」]『夕刊ニイガタ』5月7日

Keynote of Japan's diplomacy lies now in upholding pacifism 『Nippon Times』5月22日

朝鮮の運命[「民主評論」]『夕刊ニイガタ』5月28日

アメリカの外交攻勢『時代』2-6、6月1日

運命のヨーロッパ連合[「時評」]『読売新聞』6月23日

“UN” 加入を促進—平和条約と日本の地位—『帝国大学新聞』1032、6月26日

Sovereignty under the new constitution 『Contemporary Japan』16-4-6、6月

平和運動の推進[「新日本建設国民運動に寄す」]『秋田魁新報』7月9日

アメリカ兵によって強奪された金銭に対する賠償請求に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

科学技術活動の資金の支出に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

独立教育文化財団創立に対する国防献金からの寄付計画に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

地理科目の再開に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

概説[「法令解説 追補」]『日本管理法令研究』12、8月1日

連合国と枢軸国財産の保持に関する覚書 一九四五年九月一三日[「法令解説 追補 外交篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

連合国と枢軸国財産の保持に関する覚書 一九四五年一〇月一二日[「法令解説 追補 外交篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

連合国財産の保護に関する覚書[「法令解説 追補 外交篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

政党に関する覚書[「法令解説 追補 政治篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

宣伝出版物の没収に関する覚書[「法令解説 追補 政治篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

宣伝出版物の没収に関する覚書—補足第一—[「法令解説 追補 政治篇」]『日本管理法令研究』12、8月1日

日本の研究所と科学者を科学上の分析と実験に使用することに関する覚書[「法令解説 追補 文化篇」]
『日本管理法令研究』12、8月1日

編輯後記『日本管理法令研究』12、8月1日

二つの世界[「民主評論」]『夕刊ニイガタ』8月21日

政党の使命[「直結運動 政党へ」]『新日本』2-1～9 合併号、9月1日

武器なき民『地上』1-5、9月1日

戦争の犯罪性『季刊法律学』1-1、9月1日

世界平和と国際連合『社会と学校』1-6、10月1日

日本の安全保障 国連に頼る外なし『[大阪]毎日新聞』10月7日[『新聞集成昭和編年史二十二年版V』(新聞資料出版、2000年)収録]

*戦争の恐怖『第一新聞』10月7日

日本管理の将来[「基本研究」]『日本管理法令研究』13、10月15日

掠奪財産の保管、集積及び貯蔵に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』13、10月15日

管理小題の辞[「管理小題」]『日本管理法令研究』13、10月15日

占領政策はかわらない[「管理小題」]『日本管理法令研究』13、10月15日

一年をふり返って[「管理小題」]『日本管理法令研究』13、10月15日

編輯後記『日本管理法令研究』13、10月15日

平和主義の徹底[「民主評論」]『夕刊ニイガタ』11月7日

外国人の地位に関する総合的研究 一般的原则[「基本研究」]『日本管理法令研究』14、11月20日

朝鮮政府の印章に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』14、11月20日

マ元帥の年頭のことば[「管理小題」]『日本管理法令研究』14、11月20日

編集後記『日本管理法令研究』14、11月20日

ドイツの講和問題[「説苑」]『第一新聞』11月29日

二つの世界『大和』1-5、11月30日

二つの世界と日本のゆくて『革新』14、12月1日[対談：高橋正雄]

掠奪自動車の管理と保管に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

掠奪車輛の目録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

掠奪車輛の日本政府による公用使用に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

国防献金に関する覚書[「法令解説 政治篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

科学的目的のための支出に関する覚書[「法令解説 経済篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

特定個人の封鎖財産又は押収財産の解除に関する覚書[「法令解説 経済篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

東京地域の街路の命名と標識に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

日本歴史学科の再開に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』15、12月10日

教育の改革[「管理小題」]『日本管理法令研究』15、12月10日

編輯後記『日本管理法令研究』15、12月10日

“脱出”はそえものだ[「映画評」]『帝国大学新聞』1052、12月11日

*戦争は起るか『夕刊名古屋タイムズ』12月15日<愛知県立図書館所蔵>

戦争は起るか[「文化随筆」]『夕刊北海タイムズ』12月27日

社会党に与う『読売新聞』12月29日

1948(昭和23)年

ソヴェートの反抗『時代』3-1、1月1日

前途に難問題山積 復興の努力は今後『新潟日報』1月1日

講和会議を待望す 復興の努力は今後『秋田魁新報』1月6日

講和条約の性格『朝日新聞』1月6日[『社会の動き』3-2、1948年2月15日に転載]

講和条約の性格『[大阪朝日新聞]』1月7日

平和国家の道遠し[「説苑」]『第一新聞』1月13日

木戸日記をめぐって『評論』18、2月1日[座談会：岩淵辰雄、宮沢俊義、佐野増彦]

ヨーロッパ講和条約の研究(一)[「基本研究」]『日本管理法令研究』16、2月10日

ヨーロッパ講和条約の研究(一) 第一 一般問題[「基本研究」]『日本管理法令研究』16、2月10日

SCAPIN958 に従って提出された不完全な報告に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』16、2月10日

不法移管を受けた連合国民の財産の返還に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』16、2月10日

連合国及び国民の所有する日本所在の財産の保存に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』16、2月10日

隣組による神道の保証支援に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』16、2月10日

講和条約に関するマックアーサー元帥の声明[「管理小題」]『日本管理法令研究』16、2月10日

編集後記『日本管理法令研究』16、2月10日

ヨーロッパ講和条約の研究(二完) 第三 軍事問題[「基本研究」]『日本管理法令研究』17、2月10日

日本帝国政府の保管する一切の略奪貨幣への目録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』17、2月10日

連合国民の封鎖勘定引出の申請に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』17、2月10日

ドイツ政府の所有又は占有する土地と他の財産に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』17、2月10日

日本にある一切の掠奪考古学標本の目録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』17、2

月 10 日

科学及び技術人員の履歴報告に関する覚書[「法令解説 社会篇」]『日本管理法令研究』17、2月10日

講和の方式[「管理小題」]『日本管理法令研究』17、2月10日

編集後記『日本管理法令研究』17、2月10日

講和条約の性格 連合国の意志で決定—特異な性格に反省必要—[「今年の課題」]『社会の動き』3-2、2月15日

講話会議の性格と展望『革新』17、3月1日

新憲法における平和主義『世界国家』2-2、3月1日

講和条約について『女性改造』3-3、3月1日

世界情勢と日本の将来[文責在記者]『講演速報』2-6、3月15日

略奪医薬品の売却に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』18、3月25日

略奪財産の保管、送荷、貯蔵及び評価に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』18、3月25日

略奪財産の没収及び報告に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』18、3月25日

皇室の保有する略奪財産の目録及び評価に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』18、3月25日

連合国最高司令部への略奪財産に関する報告中に要求する情報に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』18、3月25日

編集後記『日本管理法令研究』18、3月25日

世界情勢と日本の将来[太平洋問題調査会講演会於大阪朝日会館、文責在記者]『時事講演』3-5・6、3月25日

国際連合と世界国家『世界国家』2-3、4月1日

世界平和と平和日本[「五十周年記念論文集」]『国際法外交雑誌』47-3・4、4月1日

日本の進路[「学芸」]『夕刊新大阪』790、4月10日

二つの世界 カリス「一つの世界の社会学」を読み『日本読書新聞』437、4月14日

日本に対する降伏後の基本政策[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

外国産の美術品目録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

賠償目録記載の掠奪財産に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

掠奪タイプライターの目録に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

掠奪財産の処置に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

若干の個人を戦争犯罪容疑者名簿よりの削除に関する覚書[「法令解説 軍事篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

私宅拘禁解除に関する覚書[「法令解説 軍事篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

前戦争犯罪容疑者の身分の解明に関する覚書[「法令解説 軍事篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日

- 賠償目録記載の掠奪財産に関する覚書[「法令解説 経済篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日
- 図書館建物に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日
- 日本本土の大縮尺地図作製のための詳細事項の分類に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』19、4月25日
- 編集後記『日本管理法令研究』19、4月25日
- 世界の情勢について[文責在記者]『講演通信』[復刊]27、4月25日
- 第三次世界大戦は起るか『時論』3-5、5月1日
- 世界平和の課題 米ソの世界国家論争をめぐって『読売新聞』5月3日
- 国際連合の改造問題[「月曜評論」]『石川新聞』5月24日
- 国連の改造問題[「月曜論壇」]『秋田魁新報』5月24日
- 世界情勢と日本の将来—戦争か平和か[講演速記]『同盟時報』43・44、6月1日
- 管理下の外国財産[「基本研究」]『日本管理法令研究』20、6月10日
- ドイツ財産のアメリカ第八軍倉庫への移転に関する覚書[「法令解説 経済篇」]『日本管理法令研究』20、6月10日
- ユネスコと日本の教育[「管理小題」]『日本管理法令研究』20、6月10日
- 編集後記『日本管理法令研究』20、6月10日
- 学生スト感想[「サンデーエコー」]『夕刊新大阪』868、6月27日
- 憲法のひらがな口語[6月、『パリの奇跡』収録]
- 世界平和の課題—米ソの「世界国家」論争をめぐって『世界国家』2-5、7月1日
- 世界国家は建設できるか『国際連合』28-4、7月1日[5月31日公開討論会於日比谷公会堂：田中耕太郎、志賀義雄、浅沼博]
- 世界国家の論理『世界』31、7月1日
- 民主的世界平和の理想『進路』3-7、7月1日
- 国際連合と世界平和『人民戦線』23・24、7月1日
- 長崎にあるフランス墓地の修復に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』21、7月10日
- 掠奪ポーキサイトに関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』21、7月10日
- 東京裁判における東条の供述[「管理小題」]『日本管理法令研究』21、7月10日
- 編集後記『日本管理法令研究』21、7月10日
- 国際貿易機構[「基本研究」]『日本管理法令研究』22、8月1日
- 一九四五年九月一三日の「連合国と枢軸国財産の保護に関する覚書」の規定と一九四五年九月二〇日の修正大蔵省令第七八号の適用に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日
- 掠奪車輛の調査に関する覚書八六三[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日
- 賠償財産目録記載の掠奪財産に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日
- 返還計画にしたがって受領国に返還される財産の包装、輸送、引渡に関する日本政府の責任に関する覚

書八八二 [「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日

一九四五年九月一三日の「連合国と枢軸国財産の保護に関する覚書」の規定と一九四五年九月二〇日の修正大蔵省令第七八号の適用に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日

亜鉛塊の没収と貯蔵に関する覚書[「法令解説 経済篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日

東京大学にある書籍小冊子の返還に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』22、8月1日

内閣変更をめぐる憲法問題[「管理小題」]『日本管理法令研究』22、8月1日

編集後記『日本管理法令研究』22、8月1日

世界平和と国家主権『国際連合』28-5、8月1日

世界国家の問題『人類同盟』6、8月1日

世界連邦への道『世界連邦』1、8月1日

最後の審判[特別寄稿]『夕刊新大阪』916、8月14日

世界平和と日本『秋田魁新報』8月15日

世界平和と日本『岐阜タイムス』8月15日

世界平和と日本の立場[「評壇」]『新潟日報』8月15日

権力は責任を伴う[「天皇は退位なさるべきか」]『日本週報』89・90、8月15日

天皇退位論『読売新聞』8月26日[読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』(国民教育社、1950年)収録]

東京裁判による国際的反省『中央公論』63-9、9月1日

朝鮮人学校の問題[「時論と小題」]『日本管理法令研究』23、10月1日

占領地域生産財に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』23、10月1日

連合国国民に対する日本所在の財産の返還手続に関する覚書[「法令解説 外交篇」]『日本管理法令研究』23、10月1日

官公刊行物の交換に関する覚書[「法令解説 政治篇」]『日本管理法令研究』23、10月1日

編集後記『日本管理法令研究』『日本管理法令研究』23、10月1日

国際主義と愛国『人類同盟』7、11月1日[『世界国家の問題』収録]

World must aim for peace equally beneficial to all『Nippon Times』11月3日

*世界の審判『日日新聞』11月13日

判決文の翻訳を語る 島流しの八六日間『夕刊新大阪』1006、11月13日

東京判決の世界史的意義[「時評」]『読売新聞』11月15日[読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』(国民教育社、1950年)収録]

新憲法下における条約と国内法の関係 国際法的考察[「基本研究」]『日本管理法令研究』24、12月1日

新憲法に於ける平和主義『日本青年再興史』1-1、12月1日

東京判決と戦争責任[「説苑」]『第一新聞』12月7日

アメリカ大審院と訴願[「サンデーエコー」]『夕刊新大阪』1035、12月12日

日本管理三年の推移『日本週報』103・104・105、12月15日

1949(昭和24)年

講和問題と日本[「時評」]『読売新聞』1月10日

党とともに人を[「公示板にきざむ」]『夕刊新大阪』1068、1月15日

東京判決と自衛論『法律時報』21-2、2月1日

*世界の国々と日本、平和のための努力『コドモ週報』2月20日

北太平洋条約と日本[「説苑」]『第一新聞』3月2日

講和会議は既に始まっている[「経済九原則下の我々の生活はどうなる」]『自由国民』19、3月10日

東京裁判と自衛権『国際法外交雑誌』48-2、3月15日

平和と婦人『徳島新聞』4月13日[対談：羽仁説子]

東京判決の解剖[「基本研究」]『日本管理法令研究』26、5月1日

編集後記『日本管理法令研究』26、5月1日

改正意見は妥当[「新憲法で満二年」]『女性新聞』103、5月1日

二つの世界と世界平和『ニューエイジ』1-5、5月1日

日本は極東のスイスたりうるや[「平和への意思と情熱 憲法施行二周年記念日に寄す」]『夕刊新大阪』1175、5月3日

時代遅れの中立論 集団保障の途を選べ[「平和日本はどこへ行く」]『読売新聞』5月27日[読売新聞社科学部編『戦争と世界平和』(国民教育社、1950年)収録]

チャーチルの回顧録—第二次大戦の白書『毎日新聞』5月29日

世界同胞の精神『読売新聞』6月23日

原子力時代[「文化随筆」]『夕刊北海タイムス』6月24日

世界人権宣言 東大教授横田喜三郎氏に聴くの会『人権』7、7月1日[法務府人権擁護局主催座談会：大室人権擁護局長、稲田第三課長、西塚事務官、松野事務官]

永久中立論を批判する『前進』24、7月1日

対日講和会議の展望『週刊東洋経済』2380、2381、7月9、16日[座談会：岩淵辰雄、岡崎勝男、田村幸策、長谷川才次、諸井貫一、綿野脩三、大原万平、村山]

二つの世界とわれわれの道『村と共済』1-1、8月1日

平和の鐘[「日曜随想」]神戸新聞』8月14日

平和の鐘『夕刊京都』8月16日

ソ連の原爆所有に直面して 頼みは『国際管理』破れたら人類破滅『夕刊新大阪』1323、9月28日

アメリカ最高裁判所に対する重大戦争犯罪人の訴願[「時論と小題」]『日本管理法令研究』27、10月1日

公共教育施設の不当使用に関する覚書[「法令解説 文化篇」]『日本管理法令研究』27、10月1日

編集後記『日本管理法令研究』27、10月1日

集団的自衛の法理『国際法外交雑誌』48-4、10月1日
“原子外交”と日本[「時評」]『読売新聞』10月9日
平和か破滅か『世界春秋』1-1、11月1日
ソ連の原爆所有と世界平和『時論』4-11、11月1日
日本の運命『思索』28、11月1日[座談会：有沢広巳、土屋清]
講話と安全保障『朝日新聞』11月10、11日
単独講和か一般講和か『時事新報』11月13日
理想は全面講和 軍事協定 違憲でない[「講和問題の焦点をきく」]『中部日本新聞』11月13日
講和問題と日本の将来『西日本新聞』11月13日[座談会：岡崎勝男、掘真琴]
日本講和の問題点[「時言」]『新潟日報』11月14日
[「講和をどう思う」]『読売新聞』11月19日
講和の中心問題[「市民評論」]『夕刊新大阪』1380、11月25日
講和の展望『経済往来』1-10、12月1日
共産主義と大学の自由『世界評論』4-12、12月1日[検討会：寺沢恒信、戒能通孝、宮村撰三]
原子力下の平和問題『世界とわれら』30-14、12月1日
講和の方向『展望』48、12月1日[座談会：細川嘉六、鈴木文史朗、向坂逸郎、林健太郎]
*講和の主要問題、正式な国際関係の回復『時事教養』12月5日
対日講和会議の焦点『東洋経済新報』2403、12月17日[座談会：岡崎勝男、田村幸策、蠟山政道]

1950(昭和25)年

Peace pact advent is waited by Japan『Nippon Times』1月1日
集団殺害罪と引揚問題[「日曜評論」]『読売新聞』1月8日
一九五〇年における日本の国際的展望[「時評」]『新岩手日報』1月12日
講和に直面する日本のために—自立・移民・国際的地位—『日本週報』139、1月15日
季刊「日本管理法令研究」の辞(連名)『季刊 日本管理法令研究』28、1月20日
編集後記『季刊 日本管理法令研究』28、1月20日
講和と自衛権[「論壇」]『伊勢新聞』1月25日
戦争放棄と自衛権 軍事援助は構わない 基地の提供は憲法の精神に反す『読売新聞』1月28日
*講和の主要問題『自警』1月
講和の法理『法律時報』22-2、2月1日[座談会：入江啓四郎、平野義太郎、宮沢俊義]
責任問うなら東京裁判があつた おそすぎる提案[談]『[大阪]毎日新聞』2月3日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十五年版 1』(新聞資料出版、2000年)収録]
講和と自衛権『信濃毎日新聞』2月8日

- 自衛権と戦争放棄[「市民評論」]『夕刊新大阪』2月8日
- 戦争の脅威とアジア『読売新聞』2月22日[座談会：ハワード・ハンドルマン、ゴードン・ウォーカー、ヘツスル・ティルトマン]
- 中ソ条約の核心を抉る『時事週報』4、[2月25日][座談会：田中耕太郎、鈴木文史朗]
- 新最高裁長官を語る『読売新聞』3月1日
- 講和の順序『読売評論』2-3、3月1日
- 戦争放棄と自衛権『法学協会雑誌』68-3、3月1日
- 事実上の講和[「市民評論」]『夕刊新大阪』3月2日
- 中・ソ条約と日本の立場『講演時報』614、3月5日[座談会：田中耕太郎、鈴木文史朗]
- [日本の講和問題について証人発言]『第7回国会参議院外務委員会会議録』6、3月9日
- 民政移管の方式[「基本研究 ドイツ民政移管の研究」]『季刊日本管理法令研究』29、3月10日
- 編集後記『季刊日本管理法令研究』29、3月10日
- 講和と安全保障について[2月8日講演(於青山学院礼拝堂)、文責在記者]『講演通信』50、3月25日
- 編集後記『季刊日本管理法令研究』30、3月30日
- 講和・中立・自衛権—横田喜三郎氏に聞く『前進』33、4月1日[座談会：山川均、大倉旭、高橋正雄、岡崎三郎、荒畑寒村]
- 徳田要請の問題[「学芸」]『夕刊新大阪』4月5日
- 平和と正義『法哲学四季報』6、4月10日
- 世界平和と日本[2月8日講演(於青山学院礼拝堂)、文責在記者]『講演通信』51、4月25日
- 学生と自由について[巻頭言]『時事週報』7、[4月ごろ]
- 武力なき自衛権『学苑』11-5、5月1日
- 国際連合と日本の安全保障『国際法外交雑誌』49-3、5月1日
- 米ソの共存[「中日評論」]『中部日本新聞』5月1日
- 日本は民主主義の敵か味方か？—マクマホン・ボール氏の指摘をめぐって—『日本評論』25-5、5月1日[座談会：小椋広勝、都留重人、H・ティルトマン、F・ホーレー]
- [「当今法科学学生気質」]『法律のひろば』3-5、5月1日
- 戦争放棄と講和問題『郵政』2-5、5月1日
- 憲法と時の焦点『東京新聞』5月4日[対談：浅井清人]
- 自衛権の概念『国家学会雑誌』64-5・6、6月1日
- 入江啓四郎編講和問題の基礎知識『図書新聞』49、6月14日
- 社会党への苦言—特に講和問題の態度について—[「日曜評論」]『読売新聞』6月18日
- 東京会談の意義[「日曜論壇」]『新岩手日報』6月25日
- 東京会談の意義[「日曜論壇」]『山形新聞』6月25日

東京会談の意義[「論壇」]『伊勢新聞』6月25日

*内乱でなく戦争 北鮮の行動は”侵略”か[談]『読売新聞』6月29日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十五年版 III』(新聞資料出版、2000年)収録]

入江啓四郎編講和問題の基礎知識 講和論の好資料[「新刊紹介」]『夕刊毎日新聞』7月1日

朝鮮の戦争と日本[「市民評論」]『夕刊新大阪』7月7日

朝鮮問題について 内乱、内戦でない 北鮮の侵略戦『北海道新聞』7月9日

戦争はどうなる 朝鮮動乱と日本の影響『読売新聞』7月12日[座談会：加瀬俊一、赤松要、尾形昭二、辻二郎]

朝鮮の動乱と国際連合[「週間論評」]『朝日新聞』7月13日

明示された安全保障『日本週報』154、7月15日

国連の旗の下に[「日曜論壇」]『山形新聞』7月23日

朝鮮問題の教訓[「中日評論」]『中部日本新聞』7月24日

朝鮮問題と対日講和『中部日本新聞』7月27日[対談：谷川徹三]

第三次世界大戦の危機と日本の安全保障[「日曜評論」]『読売新聞』7月30日

朝鮮の戦乱と日本の防衛『時事週報』12、8月1日

Japanese cooperation with the U.N.『Nippon Times』8月8日

朝鮮動乱と日本の安全保障『地上』4・9、9月1日[対談：野村宣]

日本の安全保障[「月曜評論」]『岐阜タイムス』9月18日

捕虜と俘虜[「にちようへびのあし」]『夕刊新大阪』9月18日[『パリの奇跡』収録]

編集後記『季刊日本管理法令研究』31、9月30日

平和を戦う国際連合『東奥日報』10月23、24日[座談会：佐藤尚武、岡崎勝男]

平和を戦う国際連合『日本海新聞』10月24～26日[座談会：佐藤尚武、岡崎勝男]

三十八度線[「にちようへびのあし」]『新大阪』10月30日

国際連合のはなし『中学時代』2・11、11月1日

世界学会議の横顔 日本からも副議長[「フランス通信」]『読売新聞』12月23日

生れる世界大学協会 学問の自由を宣言『中部日本新聞』12月23日

スピードの革命[12月、『パリの奇跡』収録]

スイスの生活[12月、『パリの奇跡』収録]

ジュネーヴの空港[12月、『パリの奇跡』収録]

とばくの国モナコ[12月、『パリの奇跡』収録]

ローマ法王国[12月、『パリの奇跡』収録]

無防備都市ローマ[12月、『パリの奇跡』収録]

青い海岸[12月、『パリの奇跡』収録]

日本の憲法と戦争放棄[パリ大学講演、『パリの奇跡』収録]

1951(昭和26)年

一九五一年の直面する五大問題『学苑』12-1、1月1日[座談会：赤尾好男(司会)、楠山義太郎、剣木亨弘、佐野学、帆足計、山浦貫一]

日本への理解と親善 伊国民の強い関心『読売新聞』1月9日[「イタリアと日本」と改題、『パリの奇跡』収録]

地球は縮小する 国際航空の発達『中部日本新聞』1月13日

フランスと日本『南日本新聞』1月14日

二つの世界と国際法『比較法雑誌』1-1、1月15日

夜を失ったパリ 美しい街は昔のままだけれど…[「フランス通信」]『読売新聞』1月17日

戦争放棄か防衛放棄か—フランス法学者との論議—[「日曜評論」]『読売新聞』1月21日

再軍備より駐屯軍歓迎[「ダレス特使は何を望むか」]『岐阜タイムズ』1月27日

再軍備問題座談会 ダレス特使を迎えて『読売新聞』1月28～31日[座談会：蠟山政道、赤松要、永田清、加瀬俊一]

武力なき自衛権[「伊勢評壇」]『伊勢新聞』1月29日

再軍備は慎重に[「日本の自衛権について」]『佐賀新聞』1月31日

*一九五一年の直面する五大問題『外苑』1月[座談会：鍛木亨弘、帆足計、佐野学ほか]

ダレス声名の核心『下野新聞』2月12日

ダレス声名の核心[「月曜評論」]『岐阜タイムズ』2月12日

安全保障の方式明示—ダレス離日声名の核心—『信濃毎日新聞』2月12日

視てきた欧州の国民生活『実業の日本』54-4、2月15日

講和問題の見通し『中部日本新聞』2月15日[座談会：岡崎勝男、堀内謙介]

再軍備と学生[「時評」]『東洋経済新報』2461、2月24日

平和のための防備『改造』32-4、3月1日[討議：安部能成、有沢広巳]

占領軍将兵の非行に関する覚書[「法令解説 軍事篇」]『季刊日本管理法令研究』32、3月1日

国際保障と自衛[「特集 日本の運命的課題」]『中央公論』66-3、3月1日

再軍備と憲法『中部日本新聞』3月9日

対日講和をめぐつて『官業労働』5-4、4月1日

*二つの世界と日本『中学時代』3-1、4月1日

空想的講和論を論破—ダレス特使の演説—[「山陽時評」]『山陽新聞』4月27日

パリの奇蹟—その降伏と解放のエピソード—『世界』66、6月1日[『パリの奇蹟』収録]

朝鮮戦争の一周年 世界に与えた影響[「中日評論」]『中部日本新聞』6月11日

野球放送[6月、『パリの奇跡』収録]

日本の安全保障—アメリカの講和条約案にそくして—『日本及日本人』2-7、7月1日

講和条約草案を見て『中部日本新聞』7月13日

講和草案と対ソ関係[インタビュー]『夕刊中外』7月15日

「講和草案をこう考える」『夕刊毎日新聞』7月21日

“時”が回復する国交 少数の調印拒否憂いなし[「講和後の日本」]『神戸新聞』8月1日

講和後の日本—主権的な独立国へ『中部日本新聞』8月13日

当分は双方ともに結ぶな[「中国との講和は国府か中共か」]『日本週報』184、8月15日

主権と独立を回復[「講和後日本の姿」]『西日本新聞』8月25日

インドの不参加『中部日本新聞』8月29日

この講和をして意義あらしめよ『経済往来』3-9、9月1日

国家の独立とは—講和後の日本—『中学時代』3-6、9月1日

嵐を呼ぶか、桑港会議[「日曜評論」]『読売新聞』9月2日

講和不調印国との関係はどうなるか『大阪新聞』9月4日

完全な独立国に 外交目標は親善と協力[「講和の問題点」]『神戸新聞』9月5日

故郷忘れうべき—金鯉愛惜『名古屋タイムズ』9月21日

条約は紙くずだ[9月、『パリの奇跡』収録]

駐兵は認めても再軍備は避けなければならぬ[「平和憲法と軍事協定の締結」]『世界』70、10月1日[『安保体制論』<文献選集日本国憲法14>(三省堂、1978年)収録]

講和条約のもたらすもの『地上』5-10、10月1日

パリー・ローマより帰って—パリー大学に於ける自衛権論争—『成蹊大学政治経済論叢』2-3、10月10日

駐兵と主権[「日曜評論」]『読売新聞』10月21日

*講和条約の後に来るもの『中部国鉄』10月

現実に立って理想を追求 私には二つの面がある[「私の人物案内」]『図書新聞』120、11月5日

*講和後の日本、青年への期待『高校桐蔭新聞』12月8日

人権を確立せよ—世界人権宣言記念日に当り—[「時評」]『読売新聞』12月10日

世界軍縮のテスト—朝鮮休戦の成否—[「中日評論」]『中部日本新聞』12月10日

独立日本と天皇制『読売新聞』12月22～25日[座談会：植原悦二郎、矢部貞治、鈴木安蔵]

1952(昭和27)年

僕のスケート『中央公論』67-1、1月1日[『パリの奇跡』収録]

独立日本の防衛体制『西日本新聞』1月7日

- アメリカ軍出動の場合—行政協定に望む—[「日曜評論」]『読売新聞』2月3日
憲法の系図[「中日評論」]『中部日本新聞』2月4日
- *独立日本の将来『緋維春秋』2月7日
保安隊と再軍備“保安隊”は軍隊である 国民投票による憲法改正を望む『新潟日報』2月11日
- *国連に協力するわれわれの態度『国連東京』1、2月15日
行政協定の要点[「伊勢評壇」]『伊勢新聞』2月16日
裁判権の問題 行政協定に再考を望む『朝日新聞』2月22日
外交官というもの[「随筆」]『時の法令解説』50、2月23日[「パリの奇跡」収録]
行政協定の問題点[「日曜論壇」]『山形新聞』3月2日
当面の施設、区域提供 行政協定 米軍出動と日本の義務[「月曜評壇」]『西日本新聞』3月3日
米軍出動と日本の義務 行政協定をめぐる『高知新聞』3月5日
日本の安全保障[「安全保障及び軍事基地協定に関する研究」]『国際法外交雑誌』51-1、3月15日
日本に有利な条約 対等の立場は無理だ[談、「講和をどう見る」]『婦人タイムズ』171、3月29日
- The constitution of Japan and the right of self-defense 『The Japan annual of law and politics』1、3月30日
- 復古調を警戒せよ『新大阪』4月29日
日本とソ連・中国[「論壇」]『福井新聞』4月30日
飛行機の旅[4月、『パリの奇跡』収録]
- *甚も勉強しだい『困基の友』4月
行政協定をめぐる諸問題『世界』77、5月1日
科学や文化に[「流血と祝典 独立一周年に思う」]『読売新聞』5月5日
ヨーロッパを歩いて[「日曜随想」]『名古屋タイムズ』5月5日
- *国家の独立とは『旬刊読売』10-14、5月11日
奇跡と奇蹟[5月、『パリの奇跡』収録]
民主政治のあり方—読者の質問に答えて—『世界』78、6月1日
スピードの革命[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』6月14日
国民の期待に背く国府との平和条約締結『西日本新聞』6月23日
ソ連代表部の地位[「日曜評論」]『読売新聞』6月29日
日本の国連加入問題[「中日評論」]『中部日本新聞』6月29日
勲章[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』7月19日
日本人の勤勉[「日曜随想」]『名古屋タイムズ』7月21日
現実に独立を守る道—講和条約一周年にさいして—『毎日新聞[夕刊]』9月8日
選挙と追放解除者『産業経済新聞』9月15日

再軍備と米国の援助『山陽新聞[夕刊]』9月17日
どうなる日本の国連加入[インタビュー]『東奥日報』9月22日
執行猶予程度が妥当[談]『読売新聞』9月25日
[「選挙に対する意見・批判・希望」]『世界』82、10月1日
番地[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』10月18日
民主政治の常道[「中日評論」]『中部日本新聞』10月26日
国際連合と日本『外交時報』950、11月1日
水兵事件におもう[「時局随想」]『世界とわれら』31-3、11月1日
国連軍協定をどう打開するか[「日曜評論」]『読売新聞』11月23日
*再軍備賛否論『実業の世界』49-臨1、11月[対談：北岡 寿逸]
吉田書簡に準ずべし 独立タテに感情に走るな[「良識と感情はこう裁く 英濠兵事件頻発と裁判権」]『週刊サンケイ』1-44、12月21日
軍艦乗組員に対する裁判権—イギリス水兵事件について—『国際法外交雑誌』51-6、12月25日[『国際法論集Ⅱ』収録]
名簿[「随想」]『西日本新聞[夕刊]』12月26日

1953(昭和28)年

日本外交の進路『西日本新聞』1月3日[座談会：蟻山政道、永田清]
*国連軍に対する刑事裁判権『時事教養』1月19日
共和党的外交と日本への影響『西日本新聞』1月24日
碁の友[「日曜随想」]『名古屋タイムズ』1月26日
「新しい日本外交」の出発[「国民外交討論会 世界の現実と日本」]『改造』34-2、2月1日[討議：神川彦松、堀内謙介、加納久朗、石井康、大橋忠一、斉藤音次、有田八郎]
中立は可能なりや[「随想」]『京都新聞』2月4日
中立は可能なりや『西日本新聞[夕刊]』2月6日
領空の侵犯『毎日新聞』2月7日
*ユネスコ活動のあり方『ユネスコ通信』2月15日
*国際理解はなぜ必要か『時事教養』94、月日未詳
大邦丸事件 果して領海侵犯か 裏付がない韓国主張[談]『読売新聞』2月28日
日本は狙はれている?『文芸春秋』31-4、3月1日[座談会：曾祢益、森島守人、岩畔豪雄]
学者の文章『毎日新聞』3月3日
[「今後の米ソ関係をどう見るか」]『読売新聞』3月5日
国際的緊張 幾分緩和か『西日本新聞[夕刊]』3月6日

- 失言『西日本新聞』3月19日
- 失言[「随想」]『京都新聞』3月19日
- 鳩山自由党 まず政策を練れ[「各党への批判と期待」]『毎日新聞』3月26日
- 国連改造論—その世界的調査に備えて—『読売新聞』3月27日
- 変転するソ連『西日本新聞[夕刊]』4月15日
- 誤植[「一日一想」]『福井新聞』4月20日
- 日本も具体策練れ 国連改造の世界的研究『西日本新聞』5月14日
- 超党派外交を望む[「週間特信」]『東奥日報』5月25日
- 行政協定はどう改訂されるか『解説』6、6月1日
- 学者と放送『放送文化』8-6、6月1日
- 反米と基地『読売新聞』6月4~8日[座談会：戒能通孝、石垣綾子、大宅壮一、レオン・ブルー、マーヴィン・ストーン、ウォルター・シモンズ]
- 国際法的に見た朝鮮休戦『中部日本新聞』6月9日
- 国際的に見た行政協定『時の法令』100、6月13日
- MSA とその条件『毎日新聞』6月20日
- 家具[「一日一想」]『福井新聞』6月24日
- 家具[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』6月25日
- 家具[「都論壇」]『都新聞』6月28日
- 地球はちいさくなる『中学時代』5-4、7月1日
- [接收解除貴金属及びダイヤモンド関係事件について参考人発言]『第16回国会衆議院 行政監察特別委員会会議録』3、7月3日
- ベリヤ追放と三国外相会議[「日曜評論」]『読売新聞』7月12日
- 国有化法の国際的効力『法曹時報』5-8、8月1日
- 及第点には遠し[「国会を採点する 外交」]『読売新聞』8月12日
- 朝鮮統一のカギ[「中日評論」]『中部日本新聞』8月16日
- 社用別荘『山陽新聞』8月16日
- 朝鮮統一のカギ[「随想」]『西日本新聞[夕刊]』8月18日
- 社用別荘[「随想」]『西日本新聞[夕刊]』8月20日
- 国際司法裁判所で黒白を 韓国は公海の自由侵す[談「李ライン我々はどうする？」]『毎日新聞[夕刊]』9月9日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十八年版V 日韓会談決裂』(新聞資料出版 2004年)収録]
- 互譲と妥協の精神 李ライン問題の解決策[「日曜評論」]『北海道新聞』9月28日
- 大陸ダナ[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』9月25日
- 李ラインの問題[「中日評論」]『中部日本新聞』9月27日

行政協定の改訂を喜ぶ『朝日新聞』9月30日
李ライン問題の解決策『西日本新聞』10月3日
首脳が直接折衝せよ[「日韓会談決裂後の対策」談]『毎日新聞』10月24日
召喚状『西日本新聞』10月25日
国際法に三昧一途の立作太郎先生[「日本の法律学を築いた人々」]『書齋の窓』6、11月10日[「書齋の窓」269、1977年11月1日に再掲載]
漁業問題と国際裁判[「中日評論」]『中部日本新聞』11月22日
“国際裁判”活用せよ[「日曜評壇」]『西日本新聞』11月23日
保安隊の海外派遣『解説』10、12月1日
公海の自由と領海—李ラインを中心として—『キング』29-14、12月1日
管理法令研究の回顧と感想『日本管理法令研究』35、12月20日[座談会：鈴木竹雄、田中二郎、石井照久、金沢良雄、高野雄一、矢沢惇、永田みどり、入江啓四郎]
編集後記『日本管理法令研究』35、12月20日
おおみそかから元旦へ[「日曜随想」]『山形新聞』12月27日
おおみそかから元旦へ[「随想」]『信濃毎日新聞』12月31日

1954(昭和29)年

ボン・東京ライン 世界外交のハイウェイ『京都新聞』1月1日
ボン・東京ライン 世界外交のハイウェイ『熊本日日新聞』1月1日
国際裁判と日本『世界とわれら』33-1、1月1日
ボン・東京ライン 世界外交のハイウェイ[「都論壇」]『都新聞』1月1日
平和への道を探る『産業経済新聞』1月3～5日[座談会：桶谷繁雄、天羽英二、田付景一]
四国外相会議と日本『[大阪]読売新聞』1月22日
朝鮮捕虜の釈放と影響[「中日評論」]『中部日本新聞』1月31日
朝鮮捕虜の釈放と影響『西日本新聞』1月31日
不可侵条約と国交調整—日中不可侵条約の前提は何か—[「討議 日中国交調整の焦点」]『改造』35-2、2月1日
中国との講和はできるか？[「討議 日中国交調整の焦点」]『改造』35-2、2月1日[討議：高津正道、細迫兼光、穂積七郎、甘文芳、淡徳三郎、帆足計、山之内一郎、吉田法晴、風早八十二、広津貞夫、岩村三千夫]
対米関係は緊密化[「MSA 調印後の日本 外交」]『中部日本新聞』3月9日
米の過失 実証困難[「ビキニ事件の責任と補償」談]『読売新聞』3月18日
世界平和と日本の役割『東洋経済新報』2618、3月27日[座談会：有田八郎、北村徳太郎、河野密、田村幸策、石橋湛山]

期間短縮を要求せよ 水爆実験区域拡大はやむなし[「月曜評壇」]『西日本新聞』3月29日
危険区域の拡大は適法か[「中日評論」]『中部日本新聞』3月29日
恐るべき原子力の行方『愛媛新聞[夕刊]』4月12日[座談会：茅誠司、高木惣吉]
原子力国際管理の再認識[「評論」]『信濃毎日新聞[夕刊]』4月14日
直に国際管理へ 監視のみで解決できぬ[「のろわれた水爆」]『神戸新聞[夕刊]』4月19日
水爆実験と公海の自由『時の法令』131、4月23日
外交史上稀な失態 日比賠償交渉の中断『西日本新聞』5月1日
責任を明かにせよ 史上類例のない失態 対比賠償 政府、情勢の観測誤る『新潟日報』5月2日
政治的に解決せよ[「討論 対米債務の処理」]『毎日新聞』5月6日
インドシナの解決策[「中日評論」]『中部日本新聞』5月10日
インド支那休戦急げ[「月曜評壇」]『西日本新聞』5月10日
[接収解除ダイヤモンドの処理等に関する法律案と接収貴金属等の処理に関する法律案について参考人
発言]『第19回国会衆議院大蔵委員会会議録』53、5月12日
国有化の国際的効力『比較法雑誌』2・2・3・4、6月15日[『国際法論集Ⅱ』収録]
秘密外交[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』6月23日
東南亜のロカルノ条約『北海道新聞』6月27日
二つの巨頭会談と日本『神戸新聞』7月3日
国連憲章改正と日本[「寄書」]『毎日新聞』7月11日
暗い広小路[「日曜随想」]『名古屋タイムズ』8月2日
アパート風景[「随想」]『夕刊京都』8月7日[『国境のない旅』収録]
法律語の改善 条文引用の困難さについて『毎日新聞』8月18日[『国境のない旅』収録]
製造禁止を掲げよ 原水爆反対運動は本末テントウ[「山ろく清談」]『信濃毎日新聞[夕刊]』8月18日
太平洋会議の意義 東南アジアの実態をさぐる『毎日新聞』9月28日
SEATOをどう見る？[「赤門時評」]『東京大学学生新聞』210、10月25日
*記者のカンというもの、ピリッと来る感覚『北陸新聞』10月31日
SEATOと日本『名古屋商業会議所月報』10月
率直、公平な三輪さん[「論文を審査して」]『読売新聞』11月3日
中ソとの国交調整 一歩前進こそ新内閣の課題[「中日評論」]『中部日本新聞』12月20日
中ソとの国交凶れ 吉田・ダレス書簡は無効[「月曜評壇」]『西日本新聞』12月20日

1955(昭和30)年

政府の誠意にかかかかる 中ソ問題・絶好の試金石『読売新聞』1月12日
外交調査会に賛成『大阪読売新聞』1月13日

ソ連の対独戦争終結『北海道新聞』1月27日

政治的打診の匂い じっくり腰を落着けて[「ソ連の呼びかけとその波紋」談]『産業経済新聞』1月29日

戦争終結宣言の問題点 日ソ交渉のありかた[談]『読売新聞』2月5日

試験の夢[「学芸」]『北海道新聞』2月5日

*人権の保障と国際情勢『ユネスコ新聞』2月5、15、25日

試験の夢『西日本新聞』2月11日[「試験二題」『国境のない旅』収録]

戦争終結宣言の意味と効果『朝日新聞[夕刊]』2月14日

中ソとの国交調整 現実の事態に即し『二つの中国』認めよ[「中日評論」]『中部日本新聞』2月21日

*中ソ国交回復『瑞陵』2月

沖縄をめぐる法律問題『法律時報』27-3、3月1日[座談会：中村哲、海野普吉、森川金寿]

その実態をつかめー米、英、ソ連の原爆合戦ー『神戸新聞』3月5日

ヤルタ協定発表の影響[「中国論壇」]『中国新聞』3月20日

中共使節団の「名称」と「承認」[論壇]『朝日新聞』3月25日

中ソとの国交調整ーその問題と在り方ー『世界』112、4月1日

志望者に与える[「学部選択のしおり 法学部の巻」]『蛍雪時代』25-1、4月1日

講和発効三周年の日本[「寄書」]『毎日新聞』4月28日

沖縄と日本の主権[「特集 沖縄の地位」]『国際法外交雑誌』54-1・2・3、4月30日

講和後三年と日本の地位[「論壇」]『西日本新聞』5月1日

基本方針 まず講和条約締結[「日ソ国交の調整」]『読売新聞』5月5日

日ソ交渉と領土問題 歯舞・色丹返還要求を貫徹[「中日評論」]『中部日本新聞』5月9日

日ソ交渉と領土問題『西日本新聞』5月10日

平和的利用に努力せよ 濃縮ウランの受入に当って[「ろんだん」]『新潟日報』5月26日

中共貿易と中共承認『政治公論』14、6月1日

ソ連の強硬態度に直面して『西日本新聞』6月18日

憲章の欠点改善望む『毎日新聞』6月20日

歯舞返還は当然[談]『北海道新聞』6月20日

米国の同意あれば内容の変更も[ウラン受入問題]『朝日新聞』6月22日

濃縮ウラン受入をめぐる学術会議の討論[第19回日本学術会議総会における発言]『世界』115、7月1日

日ソ交渉と日本の立場『経済時代』20-7、7月1日

自由意志で制定[記事「憲法 波紋投げる“清瀬理論” 両教授の見解」中の談]『朝日新聞』7月7日[『新聞集成昭和編年史 昭和三十年版Ⅳ 原水爆禁止世界大会』(新聞資料出版、2007年)収録]

日米原子力協定を如何に考えるか『週間論調』75、7月7日[6月26日NHK放送討論会：中曽根康弘、

勝間田清一]

巨頭会談と日本の外交『神戸新聞』7月17日

平和へのスタート 巨頭会議終極の使命『西日本新聞』7月24日

巨頭会談と日本『読売新聞』7月24日[座談会：天羽英二、日高信六郎]

巨頭会談後の世界情勢『講演時報』802、803、7月25日、8月5日[座談会：天羽英二、日高信六郎]

某月某日『日本経済新聞』7月26日

巨頭会談と日本の立場『毎日新聞』7月26、27日[座談会：有田八郎、芦田均]

千島・樺太は返還されるか一日ソ交渉の問題点一『経済往来』7-8、8月1日[座談会：大橋忠一、畑中政春]

乱脈外交 テンデンバラバラの鳩山内閣[「中日評論」]『中部日本新聞』9月12日

政府は国民に説明せよ 地元も視野広く話合え[「流血の愚を避けよ きょう砂川強制測量」]『読売新聞』9月13日

実力行使許されぬ 外部団体も手を引け[「解決できぬか砂川町」]『日本経済新聞』9月13日

外交と新聞記事[「中国論壇」]『中国新聞』10月3日

外交と新聞『神戸新聞』10月4日

国際政局の焦点を語る 外相会議への展望『読売新聞』10月7日[座談会：久住忠男]

南千島返還を押し「日ソ交渉に打つ手は？」『中国新聞』10月10日

神経外交の手に乗るな[「日ソ交渉各界の意見」]『週刊読売』14-42、10月23日

超党派で解決を 早急に日比賠償 対ソ交渉はあせるな[「私の政策批判 外交」]『河北新報』10月24日

*南千島に残存主権『神戸新報』10月25日

日ソ交渉とヤルタ協定『産業経済新聞』10月25日

日ソ交渉の基本線 領土問題と漁業問題『日本水産新聞』914、10月27日

アジアの地域的安全保障『国家学会雑誌』69、7・8、9・10、11月10日、12月10日

原子力法案の混乱[「ろんだん」]『新潟日報』11月15日

外相会議とジュネーヴ精神『中部日本新聞』11月21日

日本側の措置は当然[「こじれる興安丸」談]『読売新聞』11月22日

日ソ交渉の基本線—領土問題と漁業問題—『水産界』852、12月1日

国連加入の否決 拒否権の弊害を痛感『読売新聞』12月15日

日本の国連加盟どうなる『日本経済新聞』12月15日

学術定期刊行物の在り方について『学術月報』8-9、12月20日

1956(昭和31)年

李ラインと日本 第三国を介して平和的に解決を『東邦経済』26-1、1月1日

日ソ交渉と領土問題『政治公論』16、1月1日
国連と日本の将来『世界とわれら』35-1、1月1日
アジアに立つ日本『産経時事』1月3日[座談会：鶴見祐輔、稲垣平太郎、天羽英二]
六十の正月『南日本新聞[夕刊]』1月14日
「国連協力」で外船入港は慣例[談]『朝日新聞』1月24日
日ソ交渉の妥協点は…南千島を沖縄と同じ地位におく…[「評論」]『信濃毎日新聞[夕刊]』1月28日
領土問題先決が正道 ソ連の戦争終結宣言と日本の立場『西日本新聞』1月29日
戦争終結宣言と日本の立場『読売新聞』1月29日
独立の記録－日本の国際的地位－『法曹時報』8-2、2月1日
先生の腕力『日本経済新聞』2月22日
誤植[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』3月2日
日ソ交渉と国連加盟[講演]『読売新聞』3月14日
懸案をどうする 日ソ交渉の中断[インタビュー]『東京新聞』3月24日
日ソ交渉・残された問題点『日本経済新聞』4月1日[座談会：松本俊一、平塚常次郎、小汀利得]
ポルトガルの大陸ダナ法 海水には公海の地位認める[「時評」]『読売新聞』5月20日
目に見る二つのベルリン『新潟日報[夕刊]』5月26日
青空に空襲警報 平和の国スウェーデンを訪ねて『高知新聞』6月18日
国会乱闘[「随想」]『読売新聞[夕刊]』6月29日[『国境のない旅』収録]
統治権に服従の義務 沖縄の地位と土地問題[論壇]『朝日新聞』6月30日
二つのベルリン[「随想」]『読売新聞[夕刊]』7月6日
もの笑い[「随想」]『読売新聞[夕刊]』7月13日
やっと決まった日ソ交渉の全権『西日本新聞』7月14日
体当たりで要求の貫徹へ「重光全権に与う」『産経時事』7月14日
都市計画税[「随想」]『読売新聞[夕刊]』7月20日
国さまざま[「随想」]『読売新聞[夕刊]』7月27日
国交回復を先決に[「特集・日ソ交渉への課題」]『経済時代』21-8、8月1日
日本人の勤勉[「随想」]『読売新聞[夕刊]』8月3日[『国境のない旅』収録]
スエズ運河の実力接収[「批判と意見」]『河北新報』8月6日
力の政策[「随想」]『読売新聞[夕刊]』8月10日
領土問題とソ連の主張 南千島への国際法上の根拠なし[「月曜評論」]『中部日本新聞』8月13日
アパート住い[「随想」]『読売新聞[夕刊]』8月17日[『国境のない旅』収録]
スエズ運河[「随想」]『読売新聞[夕刊]』8月24日

- 米に沖縄領有権なし 千島譲渡「廿六条」と無関係[「ダレス言明」をこう見る]『朝日新聞』8月30日
- ソ連の壁[「随想」]『読売新聞[夕刊]』8月31日
- もう時期遅れだ[「鳩山訪ソ」はか非か]『東京新聞』9月4日
- 新内閣で出直せ 領土永久占領となる『毎日新聞』9月7日
- 外交の在り方と日ソ交渉『信濃毎日新聞』9月7日
- 外交と内政[「随想」]『読売新聞[夕刊]』9月7日
- 五条方式への疑問 ソ連だけの利益『東京新聞』9月13日
- 慎重に考え直せ—アメリカの覚書と五原則方式『神戸新聞』9月14日
- もう戦後ではない[「随想」]『読売新聞[夕刊]』9月14日
- 意義重大な松本訪ソ 領土の継続審議を確約せよ[「山陽時評」]『山陽新聞』9月21日
- ソ連の心理[「随想」]『読売新聞[夕刊]』9月21日
- 道路[「随想」]『読売新聞[夕刊]』9月28日
- 国際連合と日本[「特輯 国際連合の十年」]『国際法外交雑誌』55-2・3・4、9月30日[国際法学会編『国際連合の十年』(有斐閣、1957年)収録]
- *誤植『勁草書房出版目録』9月
- シテ・ユニベルジテール『学会月報』665、10月1日
- 首相の訪ソを語る[「随想」]『読売新聞[夕刊]』10月5日
- 外交と体力[「随想」]『読売新聞[夕刊]』10月12日
- 日ソ交渉と領土問題『外交季刊』1-1、10月15日
- 日本の不幸[「随想」]『読売新聞[夕刊]』10月19日
- 領土“重光交渉”と同じ[日ソ共同宣言をめぐって]『朝日新聞』10月22日
- 暗号[「随想」]『読売新聞[夕刊]』10月26日
- 日本の不幸[「日ソ交渉の妥結と世論」]『東京だより』88、11月1日
- 平和的共存の試金石[「随想」]『読売新聞[夕刊]』11月2日
- 頼みのツナ“国連警察軍”“良識”の世界十字軍[談]『読売新聞』11月6日
- 危機に直面する世界『読売新聞』11月7、9日[座談会：山下重明、西野照太郎]
- 国連の使命と大国の武力行動『朝日新聞』11月8日
- 白い手[「随想」]『読売新聞[夕刊]』11月9日
- *昔のこと今のこと『緑会ニュース』11月15日
- ソ連大使館への暴行[「随想」]『読売新聞[夕刊]』11月16日
- *思い出深い野外演習『毎日中学生新聞』11月20日
- オリンピック[「随想」]『読売新聞[夕刊]』11月23日
- ナジ氏の場合[「随想」]『読売新聞[夕刊]』11月30日

世界平和と国連の使命[「東欧スエズ動乱とその波紋」]『経済時代』21-12、12月1日
大きな拾いもの[「随想」]『読売新聞[夕刊]』12月7日
国連加盟と日本の立場『日本経済新聞』12月13日[座談会：勝間田清一、芦田均]
国連加盟 日本の進むべき道『読売新聞』12月14日[座談会：井口貞夫、片山哲、北村徳太郎]
国連加入に思う[「随想」]『読売新聞[夕刊]』12月14日
お手盛り「乱赦」[「随想」]『読売新聞[夕刊]』12月21日
国連加盟 日本の進むべき道『講演時報』861、12月23日[座談会：井口貞夫、片山哲、北村徳太郎]
一九五六年を送る[「随想」]『読売新聞[夕刊]』12月28日
*法学界におけるイギリス語とフランス語『日仏文化通信[Bulletin franco-japonais d'informations culturelles]』12、月日未詳

1957(昭和 32)年

国連加入後の日本—その利益と責任—『国連評論』36-1、1月1日
1957年日本の進路『産経時事』1月1日[座談会：杉原荒太、曾根益、稲葉秀三]
世界はどう動くか[座談会：芦田均、木内信胤、長谷川才次、松本重治、笠信太郎]『東京だより』90、1月1日
1957年の課題をさぐる『読売新聞』1月3日[座談会：伊藤整、浦松佐美太郎、小汀利得、田付たつ子、畑中武夫、三島由紀夫]
世界平和と国際連合『信濃毎日新聞』1月4日
新年の夢[「随想」]『読売新聞[夕刊]』1月4日
国連の初舞台[「随想」]『読売新聞[夕刊]』1月11日
移民を食う[「随想」]『読売新聞[夕刊]』1月18日
プライドのある国民[「随想」]『読売新聞[夕刊]』1月25日
世界平和と国際連合—スエズとハンガリアの問題をめぐって—『外交季刊』2-1、1月25日
国連憲章の精神[「特集 国際連合の舞台に立つ日本」]『中央公論』72-2、2月1日
動揺する世界と国連[講演筆記]『青淵』95、2月1日
日本の平和は守られるか—国連加盟ののちに来るもの『国民』692、2月1日
日本は果して安全か—国連加盟と私達の心構え—『青年の文化』18、2月1日
南極探検[「随想」]『読売新聞[夕刊]』2月1日
ヨーロッパの統一[「随想」]『読売新聞[夕刊]』2月8日
重過失による殺人 法律的にみた相馬ヶ原事件『東京新聞』2月8日
国際法学者の本望 国連国際法委員に当選して[「赤門時評」]『東京大学学生新聞』286、2月11日
共産圏との復交と日本—「鉄のカーテン」内部がのぞける—『北国新聞』2月14日

敢闘精神の発揚[「随想」]『読売新聞[夕刊]』2月15日
親善使節[「随想」]『読売新聞[夕刊]』2月22日
委員当選の事情と感想[「国連国際法委員会について」]『法律時報』29-3、3月1日
ただの大使[「随想」]『読売新聞[夕刊]』3月8日
小さくなる地球[「随想」]『読売新聞[夕刊]』3月15日
湯川博士の辞職[「随想」]『読売新聞[夕刊]』3月22日
口約束[「随想」]『読売新聞[夕刊]』3月29日
国連は世界平和を保てるか『経済時代』22-4、4月1日
安保条約・行政協定の改廃をめぐる『時の法令』240、4月23日[座談会：矢部貞治、高辻正巳、西島芳二]
国外での見聞から[「国辱」]『新潮』54-9、9月1日
国際政治を基底として[「新外相への希望と期待」]『総合』1-5、9月1日
ジラード裁判[「風神」]『産経時事』9月4日
文化交流[「風神」]『産経時事』9月11日
自由が欲しい[「風神」]『産経時事』9月18日
分裂するアジア・アフリカ[「風神」]『産経時事』9月25日
比湾問題 “ソ連領とは無茶だ” [談]『北国新聞[夕刊]』9月27日
毅然とした態度で[談]『北日本新聞』9月27日
*国連におんぶは危い[談]『富山新聞』9月27日
*国際政治を基底として『統合』9月
選挙の予想[「風神」]『産経時事』10月2日
安保理の理事国に当選『信濃毎日新聞』10月2日
就職シーズン[「風神」]『産経時事』10月9日
ソ連と国際法—国連国際法委員会から見て—『外交季刊』2-4、10月10日
就職難のない国[「風神」]『産経時事』10月16日
宇宙時代[「風神」]『産経時事』10月23日
宇宙法[「風神」]『産経時事』10月30日
作られた危機[「風神」]『産経時事』11月6日
国連代表部の強化[「風神」]『産経時事』11月13日
中共代表部の問題[「風神」]『産経時事』11月20日
内外人平等[「風神」]『産経時事』11月27日
アイクの重症と国際政局『神戸新聞』11月28日
ヤミ米[「風神」]『産経時事』12月4日

鬼に笑われる[「風神」]『産経時事』12月11日

国際に加盟して一年 首尾よく安保理理事国に当選[「月曜評論」]『北海道新聞』12月16日

国連一年生を終る[「風神」]『産経時事』12月18日

イギリス人[「風神」]『産経時事』12月25日[法を守り抜くイギリス人『国境のない旅』収録]

Foreign policy 『Japan Times』12月30日

1958(昭和33)年

『ミサイル戦略』下の国際秩序『日本経済新聞』1月3日[座談会：曾禰益、芦田均、佐伯喜一]

これからの日本外交『西日本新聞』1月3日[藤山愛一郎との対談]

ことしの外交路線『北海タイムス』1月3日[藤山愛一郎との対談]

アメリカ施政権の本質[「特集 南方諸島の法的地位」]『国際法外交雑誌』56・4・5、2月25日[『南方諸島の法的地位』(南方同胞援護会、1958年)収録]

藤山外相と国連外交『国民サロン』1、3月

“Korean-Japan Diplomacy”『Oriental Economist』570、4月1日[Round Table Discussion : Tetsuo Mitarai, Yosaku Nakaho, Takeo Tanaka, Tetsusaburo Tanaka, Kosaku Tamura]

失敗した海洋法会議『朝日新聞[夕刊]』4月29、30日、5月2、3日

海洋法国際会議に出席して『朝日新聞』5月3～5、7、8日

The freedom of the seas in peril 『Japan Quarterly』5・2(April-June)、6月

現実的な理解を—スイスの核武装について[「私の意見」]『毎日新聞』7月16日

スイスの核武装『東京だより』109、8月1日

*日本の平和外交—国際司法裁の義務的管轄の受諾『ユネスコ新聞』9月5日

領海の問題—とくにその幅について—『外交季刊』3・4、10月25日

海洋法会議の横顔『外交季刊』3・4、10月25日

国際協調強まろう 民主党圧勝後の米外交[「時評」]『読売新聞』11月9日

中東の危機と国連『政治公論』34、12月1日

安保改定をどうするか『東京新聞』12月7～12日[座談会：野村吉三郎、岡田宗司]

子豚と私[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』12月25日

1959(昭和34)年

日本の自主独立をどうして守るか—とくに安保条約改定の問題について—『経済時代』24・1、1月1日

国連を育てよう “冷たい戦争” 緩和への道[「平和と民主主義のために」]『信濃毎日新聞』1月1日

新年の夢[「石筆」]『東京新聞』1月5日

日本人の微笑[「石筆」]『東京新聞』1月12日[『国境のない旅』収録]

- 十代の反抗[「石筆」]『東京新聞』1月19日
- セールスマンの会話[「石筆」]『東京新聞』1月26日
- 安保条約改正の反対論は正しいか『国民サロン』2-1、2、1月、2月[対談：西村熊雄]
- 大気圏外法と国際連合『国連評論』38-2、2月1日
- 東京タワーの光栄[「石筆」]『東京新聞』2月2日
- 世界に恥さらし[「石筆」]『東京新聞』2月9日
- 勤評[「石筆」]『東京新聞』2月16日
- 抑留漁夫の帰還[「石筆」]『東京新聞』2月23日
- 国土防衛の義務づけを[「安保条約の改定にこう望む」]『経済時代』24-3、3月1日
- 空にかける橋[「石筆」]『東京新聞』3月2日
- 丁信省[「石筆」]『東京新聞』3月9日
- 【国際情勢に関する件（ヴェトナム賠償問題）について『第31回国会衆議院 外務委員会会議録』13、3月16日
- 夜十時閉店[「石筆」]『東京新聞』3月16日
- シナ浪人[「石筆」]『東京新聞』3月23日
- 宿屋言葉[「石筆」]『東京新聞』3月30日
- 安全保障の概念と日米安保条約『外交時報』961、4月10日
- 伊達判決について 憲法の根本精神を誤解[「意見と異見」]『読売新聞[夕刊]』4月20日
- 憲法の基本精神を見失った判決[「米軍の駐留は違憲かー『米軍駐留違憲』判決への批判ー」]『国防』7-8、5月1日
- 当面する日本の国際問題ー国際法よりみた中共・安保条約問題ー『国民』719、5月1日
- 海洋国際法の新発展ー領海の「幅」と「基線」[「国際法ゼミナー」]『外交時報』962、5月10日
- 領海の幅と国際法[「特集 海洋法の研究」]『国際法外交雑誌』58-1・2、5月30日
- 「国連に関する各国調査」について[「紹介」]『国際法外交雑誌』58-3、7月30日
- 日米安保条約の改定をめぐって『政策月報』43、8月15日[座談会：長谷川才次、佐倉潤吾、船田中]
- 復興までの十五年『文芸春秋』37-9、9月1日[座談会：東久邇稔彦、石田博英、大宅壮一、田畑政治、加藤勘十、徳川夢声]
- 海洋国日本と国際法『読売新聞』9月13日[対談：中山伊知郎]
- 世界史転換の出発点 緊張緩和へ道開こう 米ソの真剣な話し合い期待『東京新聞』9月16日
- 改定に賛成 いわば世界の“定石”[「安保改定をみつめる」]『北海道新聞』9月23日
- カンカン踊問答[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月1日
- 安全保障と自衛権『時の法令』329、10月3日
- 5月27日異常なし[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月8日

日本の家屋[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月15日
南極大陸の凍結[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月22日
「第二次大戦外交史」芦田均著 正確な資料による教訓[書評]『読売新聞[夕刊]』10月29日
駅名のかな書き[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月29日[『国境のない旅』収録]
選挙の世界に思う『公明選挙時報』194、11月5日
ジグザグ行進[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月5日
ベトナム賠償は妥当か『東京新聞』11月7～9日[座談会：船田中、成田知己]
ベルリンの国旗事件[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月12日
ナンセンスの国籍論議[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月19日
ベトナム賠償は妥当か『講演時報』1000、11月23日[座談会：船田中、成田知己]
[ベトナム賠償の問題について参考人発言]『第33回国会 衆議院 外務委員会会議録』13、11月21日
新送りがな[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月26日[小野昇編『国語改革論争』(くろしお出版、1960年)収録]
軍事同盟にはなりえない—安保改定に対する疑念を解く[「安保改定を見つめる」]『経済往来』11-12、12月1日
デモ、国会をまかり通る[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月3日
世界平和への布石 画期的な南極条約[「学芸」]『北海道新聞』12月8日
世界人権デー[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月10日
憲法の根本精神を生かす[「砂川判決をこう見る」]『毎日新聞[夕刊]』12月16日
砂川判決の内容と影響『朝日新聞』12月17日[座談会：蟬山政道、佐藤功、長谷部忠]
世紀の判決[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月17日
砂川上告審 最高裁判決の問題点『信濃毎日新聞』12月17日[座談会：栗山茂、戒能通孝、中村哲]
広く支持されよう 根本問題で重要な見解打ち出す[「砂川上告審 最高裁判決をこうみる」]『東京新聞』12月17日
根本問題にふれる真剣さと勇気に敬服[「砂川判決をこうみる」]『日本経済新聞』12月17日
砂川判決をめぐって『愛媛新聞』12月17、18日[座談会：栗山茂、戒能通孝、中村哲]
砂川判決の問題点『中国新聞』12月17、18日[座談会：栗山茂、戒能通孝、中村哲]
一年をふりかえる[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月24日

1960(昭和 35)年

ベトナム賠償に疑問はない『時の課題』4-1、1月1日
*新送りがな『モジコトバ』1月1日
一九六〇年代[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月7日

- 国際法から見たベトナム賠償『外交時報』970、1月10日
- 前向きな外交[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月14日
- *国際情勢と日本の安保改定『国民主権』1月15日
- 独立国にふさわしい確定された外交方針[「『新安保』こうみる 賛成」]『西日本新聞』1月20日
- ソ連の誠意[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月21日
- 独立国にふさわしい安全保障 日米新安保条約の意義と内容『自由民主』94、1月25日
- 事前協議[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月28日
- 非友好的な行為[「極東に焦点を向けたソ連 対日強硬覚え書きを分析する」]『東京新聞』1月29日
- 砂川事件最高裁判決をめぐって『ジュリスト』臨時増刊1月号、1月[座談会：我妻栄、宮沢俊義、鈴木武雄、田中二郎、兼子一、石井照久]
- 国際連合と日本の安全保障[1959年11月6日静岡県校長協会総会記念講演要旨]『静岡の教育』[3-2]、2月1日
- ソ連の一方的共同宣言違反[「紙上討論 ソ連覚え書きをどう思うか」]『読売新聞』1960年2月12日
- 新安保条約と国際信義『時の課題』4-3、3月1日
- 他国の干渉に惑わされるな[「グロムイコ覚え書きへの意見」]『経済往来』12-3、3月1日
- 戦争放棄の限界－砂川判決を中心として－『外交時報』972、3月10日
- 安保条約論議をめぐって『政策月報』50、3月15日[座談会：床次徳二、賀屋興宣、船田中、大平善悟、田中直吉]
- 南極の国際法[「国際法ゼミナー 新しい国際法の諸問題」]『外交時報』974、5月10日
- 条約の違憲審査権－砂川判決を中心として－『国家学会雑誌』73-7、8、5月25日、6月25日
- “池田外交”の使命を衝く 信用回復、遅滞許さぬ『東京新聞』7月16日
- 海外から見た日本『東京新聞』7月17、18、20日[座談会：大宅壮一、今日出海]
- 海外から見た日本『講演時報』1032、1033、7月23日、8月1日[座談会：大宅壮一、今日出海、寺崎出世男]
- 憲法の戦争放棄の限界－砂川判決に照して－『国際法外交雑誌』59-1・2、7月30日
- 国連の強化こそ使命 総会出席の日本代表に要望『東京新聞』9月10日
- 国連中心主義で行動せよ 国連総会の開会に当たって[「月曜評論」]『河北新報』9月19日
- 議会政治はどうあるべきか－外国で見た日本の安保斗争－『講演』10、10月1日
- *巨頭会談決裂後の国際情勢『北海警友』10月
- 就任の言葉『裁判所時報』316、11月1日
- 最高裁横田新長官は語る『法曹界』69、11月15日[佐原『法曹界』主幹との対談]
- 雑音の親玉『週刊公論』2-45、11月15日[対談：大宅壮一]
- *民主主義の原則に帰れ『毎日新聞[中京版]』11月15日
- やア、こんにちわ『週刊読売』19-48、11月20日[対談：近藤日出造]

*国際協調主義、志望三選『[名古屋学院]The Student Times』11月25日

新鮮な目に映った最高裁『グラフ政府の窓』7-23、12月1日[対談：渡辺紳一郎]

あいさつ[「少年係裁判官会同」]『裁判所時報』318、12月1日

ガンコ親父というけれど[記者インタビュー]『婦人生活』14-4、12月1日

*私の少年時代—学校が好きな感心な子[談]『毎日中学生新聞』12月9日

あいさつ[「家事裁判官会同」]『裁判所時報』319、12月15日

あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』319、12月15日

Renunciation of war in the new Japanese constitution, as interpreted by the Supreme Court in the Sunakawa judgment 『The Japanese Annual of international law』4

1961(昭和36)年

新年の言葉『裁判所時報』320、1月1日

多数決の原理『法曹時報』13-1、1月1日

年頭の言葉『法曹界』70、1月1日

裁判官の増員が急務[インタビュー]『東京新聞[夕刊]』1月6日

裁判官生活『法曹』123、1月20日

調停制度について[巻頭言]『調停時報』26、1月

あいさつ[「労働関係民事事件担当裁判官会同」]『裁判所時報』322、2月1日

Law courts not adjusted to meet reforms 『Japan Times』2月10日

横田最高裁判所長官訓示『裁判所時報』323、2月15日

*What 'Go' means to me 『Go』2月

あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』327、4月15日

あいさつ[「刑事裁判官会同」]『裁判所時報』327、4月15日

法の尊重が急務 憲法記念日を迎えて[「時評」]『読売新聞』5月3日

憲法と裁判『新潟日報』5月13日[対談：中野敬止]

法による世界平和[総会講演要旨、文責在記者]『キリスト教学校教育』44、7月1日

待遇の悪い裁判官[「山ろく清談」]『信濃毎日新聞[夕刊]』8月4日

*碁とのつながり『囲碁クラブ』8月4日

法による世界平和『法の支配』51、8月31日[『国境のない旅』収録]

*テニスをしてよかったと思うこと『Tennis Seminar』8月

横田最高裁判所長官式辞[10月18日於「法の日」記念式典]『裁判所時報』338、10月1日

あいさつ[於“法による世界平和”アジア会議]『裁判所時報』338、10月1日

横田最高裁判所長官訓示『裁判所時報』339、10月15日

挨拶一法による世界平和のために―[於「法による世界平和」アジア会議]『自由と正義』12-11、11月1日

式辞(要旨)[10月1日法の日記念式典於産経会館]『自由と正義』12-11、11月1日

あいさつ[「家事審判官会同」]『裁判所時報』340、11月1日

あいさつ[「行政事件担当裁判官会同」]『裁判所時報』341、11月15日

あいさつ[「少年係裁判官会同」]『裁判所時報』342、12月1日

長官あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』343、12月15日

*英語の日記[講演]『名古屋学院]大幸』5、月日未詳

1962(昭和37)年

新年のことば『裁判所時報』344、1月1日

裁判官の増員―訴訟促進のために―『ジュリスト』241、1月1日

旅行[「随想」]『フォト』9-1、1月1日

法の支配と裁判『法曹時報』14-1、1月1日

年頭の挨拶『法曹界』75、1月1日

不注意な運転手『法曹』135、1月20日『国境のない旅』収録]

長官あいさつ[「刑事裁判官会同」]『裁判所時報』350、4月1日

長官あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』350、4月1日

裁判を語る『中国新聞』5月10～12日[糸川編集局次長との対談]

変革期の法そう界 問題点を三氏にきく『読売新聞』5月14日[座談会：植木庚子郎、小林俊三]

長官訓示『裁判所時報』354、6月1日

国際司法裁判所のことなど『ジュリスト』259、10月1日[座談会：田中耕太郎、我妻栄]

近ごろの世界と日本『心』15-10、10月1日[座談会：田中耕太郎、武者小路実篤、嘉治隆一、揚覚勇]

長官あいさつ[「刑事裁判官会同」]『裁判所時報』363、10月15日

あいさつ[「全国調停委員会」]『裁判所時報』363、10月15日

転機に立つ司法制度『中日新聞』10月16日[織田編集局長との対談]

民主主義と裁判[講演]『北陸中日新聞』10月21日

長官あいさつ[「少年係裁判官会同」]『裁判所時報』365、11月15日

長官あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』367、12月15日

長官あいさつ[「家事審判官会同」]『裁判所時報』367、12月15日

1963(昭和38)年

新年のことば『裁判所時報』368、1月1日

年頭の言葉『法曹界』79、1月1日

内外ともに明るい[「年頭の挨拶」]『朝日新聞』1月1日

違憲審査権と三権分立—アメリカの判例にそくして—『法曹時報』15-1、1月1日

国際法が仲立ち[「交遊抄」]『日本経済新聞』1月3日

*法秩序を維持『日本政経タイムス』1月5日

ことしのプラン『法曹』147、1月20日

長官あいさつ[「行政事件裁判官会同」]『裁判所時報』370、2月1日

長官あいさつ[「刑事裁判官会同」]『裁判所時報』375、4月15日

もっと“法”に関心を『愛媛新聞』4月29日[石橋編集局長との対談]

憲法、裁判問題で対談『四国新聞』5月3日[鈴木編集局長との対談]

憲法記念日に寄せる『高知新聞』5月3日[対談：福田義郎]

生きた憲法とするために[談]『徳島新聞』5月4日

最高裁判所長官訓示『裁判所時報』379、6月15日

意義深い“砂川判決”最高裁の政治不介入の傾向[「横田長官米国で演説」]『朝日新聞[夕刊]』8月15日

欧米紀行第一信『朝日新聞』8月21日[「参考になるハワイの裁判」と改題、『国境のない旅』収録]

欧米紀行第二信『朝日新聞』9月7、8日[「盛大なアメリカ法律家協会の総会」と改題、『国境のない旅』収録]

欧米紀行第三信『朝日新聞』9月15日[「アメリカ弁護士協同事務所」と改題、『国境のない旅』収録]

欧米紀行第四信『朝日新聞』9月19日[「学ぶべきドイツの憲法裁判」と改題、『国境のない旅』収録]

欧米紀行第五信『朝日新聞』9月24日

最高裁判所長官あいさつ[「刑事裁判官会同」]『裁判所時報』387、10月15日

最高裁判所長官あいさつ[「全国調停委員会会同」]『裁判所時報』387、10月15日

最高裁判所長官式辞[「藍綬褒章伝達式および調停委員表彰式」]『裁判所時報』387、10月15日

訓話[「第一七期司法修習生を迎えて—第一七期司法修習生の修習開始式における訓話・式辞」]『研修時報』21、10月

世界平和と法の支配[講演要旨]『国連ニュース』147、11月1日

長官あいさつ[「行政事件裁判官会同」]『裁判所時報』390、12月1日

長官あいさつ[「家事審判官会同」]『裁判所時報』390、12月1日

諸外国の司法制度を視察して『法曹界』85、12月10日

1964(昭和 39)年

新年のことば『裁判所時報』392、1月1日

裁判のあり方『フォト』11-1、1月1日[対談：長谷川才次]

- 法の支配徹底を[「年頭のあいさつ」]『朝日新聞』1月1日
- 政治問題と日本の最高裁判所『法曹時報』16-1、1月1日
- 率直で親しげなケネディ大統領『法曹』159、1月20日[『国境のない旅』収録]
- *大学新設に当って『名古屋学院時報』2月5日
- 慈父のような法王パウロ六世『法曹』160、2月20日[『国境のない旅』収録]
- 欧米の違憲裁判について[10月19日講演於学会会員定例午餐会]『学会月報』683、3月1日
- 最高裁判所長官あいさつ[「選挙関係行政事件担当裁判官会同」]『裁判所時報』397、3月15日
- 最高裁判所長官あいさつ[「全国少年係裁判官会同」]『裁判所時報』397、3月15日
- 気性のほげしいドイツ国会ゲルシュテンマイヤー議長『法曹』161、3月20日[「気性のほげしいドイツ国会議長ゲルシュテンマイア」と改題、『国境のない旅』収録]
- 最高裁判所長官あいさつ[「全国民事裁判官会同」]『裁判所時報』399、4月15日
- 少年非行の問題—その正しい解決のために—『国民』779、5月1日
- 憲法と裁判『西日本新聞』5月9日[編集局次長との対談]
- 最高裁判所長官訓示『裁判所時報』402、6月1日
- 長官あいさつ[「全国刑事裁判官会同」]『裁判所時報』405、7月15日
- 訓話[「第一六期司法修習生を送ることば—第一六期司法修習生の修習終了式における訓話・式辞・祝辞」]『研修時報』23、7月
- 少なすぎる法曹人口[「山ろく清談」]『信濃毎日新聞[夕刊]』8月13日
- 国際司法裁判所の強制管轄『法曹時報』16-10、10月1日
- 訓話[「第一八期司法修習生を迎えて—第一八期司法修習生の修習開始式における訓話・式辞」]『研修時報』24、10月
- 最高裁判所長官あいさつ[「全国調停委員会同」]『裁判所時報』413、11月15日
- 最高裁判所長官式辞[「藍綬褒章伝達式および調停委員表彰式」]『裁判所時報』413、11月15日
- 最高裁判所長官あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』414、12月1日

1965(昭和40)年

- 新年のことば『裁判所時報』416、1月1日
- 明白の原則—違憲審査について—『法曹時報』17-1、1月1日
- 判決の文章『法曹』171、1月20日[『国境のない旅』収録]
- 最高裁判所長官あいさつ[「全国少年係裁判官会同」]『裁判所時報』421、3月15日
- 最高裁判所長官訓示『裁判所時報』426、6月1日
- 新聞碁を読む[「巻頭随想」]『棋道』41-1、6月1日
- 最高裁判所長官あいさつ[「民事裁判官会同」]『裁判所時報』429、7月15日

訓話[「第一七期司法修習生を送ることば—第一七期司法修習生の修習終了式における訓話・式辞】『研修時報』26、7月

交通裁判スピード化[「山ろく清談】『信濃毎日新聞[夕刊]』8月26日

World peace is based upon law 『Japan Times』9月15日

第二回アジア司法会議開会式における横田最高裁判所長官あいさつ『裁判所時報』434、10月1日

長官あいさつ[「最高裁判所庁舎新営審議会発足】『裁判所時報』434、10月1日

最高裁判所長官あいさつ[「調停委員会同あいさつ】『裁判所時報』435、10月15日

最高裁判所長官式辞[「藍綬褒章伝達式および調停委員表彰式】『裁判所時報』435、10月15日

訓話[「第一九期司法修習生を迎えて—第一九期司法修習生の修習開始式における訓話・式辞】『研修時報』27、10月

長官あいさつ[「行政事件裁判官会同】『裁判所時報』438、12月1日

*民主主義と裁判『致遠』36、月日未詳

1966(昭和41)年

新年のことば『裁判所時報』440、1月1日

立法府の自律権と司法権『ジュリスト』337、1月1日

立法府の裁量権と司法権『法曹時報』18-1、1月1日

アジア司法会議について『法曹界』103、1月10日

日本の裁判『政府刊行物新聞』20、1月10日

世界の法の日『法曹』183、1月20日

長官あいさつ[「全国家事審判官会同】『裁判所時報』443、2月15日

最高裁判所長官あいさつ[「刑事裁判官会同】『裁判所時報』446、4月1日

[山田三良弔辞]『法華』52-4、4月8日

World Law Day pushed by Chief Justice Yokota 『Japan Times』4月29日

World Law Day 『[America-Japan Society] Bulletin』14-4、5月28日

最高裁判所長官訓示『裁判所時報』450、6月1日

退官随想『法曹』189、7月20日[「裁判官というもの」と改題、『国境のない旅』収録]

訓話[「第一八期司法修習生を送ることば—第一八期司法修習生の修習終了式における訓話・式辞】『研修時報』29、7月

退官して思うこと『毎日新聞』8月7日

横田喜三郎最高裁判所長官退官あいさつ『裁判所時報』455、8月15日

国民のための裁判を『読売新聞[夕刊]』8月17日

対談 この人と『中日新聞』9月19日[織田編集顧問との対談]

*法の日ー全世界の実施を期待『法の日』1、10月1日

裁判のはなし『病院』25-10、10月20日

学問の自由ー思い出のボボロ事件ー『心』19-11、11月1日[「思い出のボボロ事件」と改題、『国境のない旅』収録]

「三権広場」の象徴[「裁判官の記」]『朝日新聞』11月30日[「ブラジリアの三権広場」と改題、『国境のない旅』収録]

訓話[「第二〇期司法修習生を迎えてー第二〇期司法修習生の修習開始式における訓話・式辞」]『研修時報』30、11月

違憲審査権の意味[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月1日[「違憲審査」]『国境のない旅』収録]

秩序と平和[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月2日[「違憲審査」]『国境のない旅』収録]

世界の法の日[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月4日

*在官時代を顧みて『経済評論』12月5日

遅れる裁判[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月6日[「遅れる裁判」]『国境のない旅』収録]

事件処理の努力[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月7日[「遅れる裁判」]『国境のない旅』収録]

真実のために[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月8日[「荒れる法廷」と改題、『国境のない旅』収録]

忘れえぬこと[「裁判官の記」]『朝日新聞』12月9日

*法による世界平和会議に出席して『世界平和』月日不明

1967(昭和42)年

中南米の司法制度『判例時報』465、1月1日[「珍しいラテン・アメリカの裁判」と改題、「ラテン・アメリカの弁護士」]『国境のない旅』収録]

碁のある人生『囲碁クラブ』14-1、1月1日[対談：本間雄策]

中南米と違憲審査『時の法令』592・593、1月3日

裁判へ国民の意思反映ー国民審査に真剣な投票を『読売新聞』1月9日

お別れのパーティ『法学周辺』12[江川先生追悼号]、1月

法曹四方山話『心』20-2、2月1日[座談会：田中耕太郎、三淵乾太郎、嘉治隆一]

ケルゼン「主権と国際法」[「私の古典」]『エコノミスト』45-5、2月7日[『私の古典』(毎日新聞社、1967年)、「ケルゼンとわたくし」と改題、『純粹法学論集II』収録]

江川教授の逝去を悼む『国際法外交雑誌』65-4、2月25日

南半球の旅『学会会報』695、696、4月20日、7月10日[『国境のない旅』収録]

日本人と合理主義『潮』84、6月1日[座談会：宮沢俊義、石田英一郎、上山春平、萩原延寿]

民主主義のスタートとゴール[「明日を考える」]『潮』85、7月1日

世界の法の日『心』20-7、7月1日[『国境のない旅』収録]

体力年令を知り体力づくりに役立てよう 座談会 生活の中にアイデアを『体力づくり』2-7、7月1日[座

談会：大松博文、高田敏子、松島茂春、木島則夫]

広い学問的関心[高柳賢三追悼]『自由』9-8、8月1日

前原光雄著「捕獲法の研究」『[慶應義塾大学]法学研究』40-8、8月15日

*早起きのすすめ『新世』8月[『国境のない旅』収録]

旅する心[「随想」]『日本之経済』11-9、9月1日

*警察と民主主義『けいさつの友』10月25日

高柳教授の逝去を悼む『国際法外交雑誌』66-3、10月30日

*九九パーセントの流汗『[国有鉄道機関誌]R』10月[『国境のない旅』収録]

真の自由[巻頭言「この人のこのことば」]『PHP』234、11月1日

故高柳賢三会員追悼の辞[「彙報」]『日本学士院紀要』25-3、11月13日

最高裁判所二〇周年におもう『法曹』205、11月20日

最高裁二〇年の歩みと三代長官の抱負[「ジュリストの目」]『ジュリスト』385、387、12月1、15日[座談会：田中耕太郎、横田正俊、宮沢俊義]

1968(昭和43)年

法による平和『潮』91、1月1日[『国境のない旅』収録]

警察というもの『自警』50-1、1月1日

国際人権年を語る『ユネスコ新聞』590・600、1月5・15日[座談会：中山伊知郎、坂西志保、森恭三]

警察というもの『旭の友』22-3、3月1日

国際人権年『心』21-3、3月1日

改憲論議に警告[記者会見、「憲法と裁判」についての所見]『北日本新聞』5月3日

*話し合いのルール『月刊朝雲』6-7、7月1日[『国境のない旅』収録]

違憲審査とその在り方『動向』173、7月1日[「違憲審査のあり方」と改題、『国境のない旅』収録]

安達峰一郎記念賞[「雑報」]『国際法外交雑誌』67-1、8月30日

ノーベル平和賞と人権『中部日本新聞[夕刊]』10月22日

司法権の独立を思うー法曹会六〇周年に際してー『法曹』217、11月10日

日本でもっとも堅実な学校『経済時代』33-12、12月1日

*民主主義と裁判『書記官』55、月日未詳

1969(昭和44)年

亡き妻を語る『潮』[臨時増刊]、1月2日

労働条約の番人『時の法令』664・665、1月3日

わたくしのスケート『婦人之友』63-2、2月1日

- 法と秩序、この「昭和乱世」『読売新聞』2月3日
- 先を見通して進め[「名古屋へひとこと」]『中日新聞』2月5日
- 円いテーブル[「千秋随感」]『佼成』20-3、3月1日[『国境のない旅』収録]
- 現代における人権の課題[講演]『世界平和』4-1、3月15日
- ILO 条約・勧告適用専門家委員会に出席して－総会の運営の仕方と日本の八七号条約年次報告など－
『世界の労働』19-7、7月20日
- 南北問題でイニシアチブを握れ『潮』115、8月1日
- 正しくない法律の場合不服従より違憲審査にかけよ[「講演会から」]『朝日新聞』10月7日
- 違憲裁判のあり方－恵庭事件にそくして－『心』22-11、11月1日[「違憲判決を回避した恵庭判決」と
改題、『国境のない旅』収録]
- 一九七〇年と世界平和『世界と議会』102、11月15日
- 人権の尊重について－国際人権年にあたって－[大学セミナー・ハウス開館三周年記念講演概要]『セミナー・ハウス』15、11月25日
- 社会秩序と平和を守る[「やむを得ぬ欠席裁判－東大事件」]『日本経済新聞』11月28日
- フロレンスの休日『法曹』230、12月1日[『国境のない旅』収録]
- Judicial review in Japan: political and diplomatic questions 『Japanese Annual of international law』13

1970(昭和45)年

- 氷上フォークダンスを楽しむ[「エッセイ広場」]『リクリエーション』112、2月1日
- 安全保障問題について『書研所報』20、3月
- 大局からの“判断力”を養え『潮』124、4月1日
- ILOと日本[11月26日講演要旨於ILO五十周年記念大阪大会]『月刊労働』254、4月20日
- 信頼感が不可欠[「裁判官の姿勢はいかにあるべきか」]『日経連タイムス』1105、6月11日
- 国連強化のために 拒否権の慎重行使求める『朝日新聞』6月22日
- 田中耕太郎を囲んで『心』23-7、7月1日[座談会：田中耕太郎、谷川徹三、近衛秀麿、大島康正]
- 憲法第九条と自衛権『別冊潮』18、7月15日[対談：宮沢俊義]
- 裁判官の思想は自由か『読売新聞』7月27日[対談：伊藤正己]
- 国際教育の目標について『国民』853、8月1日
- 国家主権から人類主権へ「人類が生き残るための会議」に出席して『世界連邦新聞』212、8月1日
- アテネの夕食[「国際展望」]『英語展望』31、10月1日[『国境のない旅』収録]
- 「人類が生き残るための会議」の報告[「資料」]『国際法外交雑誌』69-3、12月10日
- スケートを楽しむ『窓』1、月日未詳[日本法律家協会編『法窓サロン－くつろいだ法律家たち』第1集
(法律文化社、1978年1月15日)収録]
- *ロンドンで滑る『日本スケート協会報』5、月日未詳

1971(昭和 46)年

- 民主主義社会と裁判『ジュリスト』469、1月1日[裁判と民主主義『国境のない旅』収録]
- 人口の爆発『心』24-1、1月1日
- 正義びいき[「わが体験」]『潮』136、2月1日[『国境のない旅』収録]
- 国際感覚の育成を『月刊教育ジャーナル』9-13、2月1日[対談：伊藤昇]
- わたしの「国民目標」『読売新聞』2月17日
- 国際連合の強化について[講演抄録]『国連ニュース』235、3月1日
- パリ大学での講演『日仏文化』26、3月30日
- 世界憲法の最基本点—人類主権の確立—『世界平和』6-2、4月10日
- 国際連合の強化について『国連』50-5、5月1日
- ILO 条約・勧告適用専門家委員会に出席して—特に八七号条約の実施状況報告をめぐって—『世界の労働』21-6、6月20日
- 純粋法学[「座右の書」]『日本経済新聞』8月22日
- ライン川の水『潮』145、10月1日[『国境のない旅』収録]
- 奇跡の古城ローフェシュタインを訪ねる『心』24-11、11月1日[「奇跡のローフェシュタイン」と改題、
『国境のない旅』収録]
- あの人この人訪問記[インタビュー]『法曹』254~258、12月1日、**1972年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日

1972(昭和 47)年

- 日本は一流の国? [「随想」]『ジュリスト』496、1月1日
- 英語の帝国主義[「国際展望」]『英語展望』36、1月1日[一部を独立させ「グラナダのジブシー・ダンス」
と改題、残りは原題のまま、『国境のない旅』収録]
- *大学の自治『東京大学学内広報』4月12日
- 鎮守の森[「千秋随感」]『佼成』23-5、5月1日[『国境のない旅』収録]
- ILO 条約の適用について[講演]『九州大学]法政研究』39-1、11月30日

1973(昭和 48)年

- 週休二日制[「随想」]『自由』15-3、3月1日
- 国際裁判と日本[国際法学会創立 75 周年記念講演]『国際法外交雑誌』71-5・6、3月20日[『国際法論
集 I』収録]
- 国語の危機『心』26-4、4月1日[『国境のない旅』収録]
- 試験[「教育随想」]『月刊教育ジャーナル』12-3、6月1日[「試験二題」]『国境のない旅』収録]
- ILO 条約・勧告適用専門家委員会に出席して—特に八七号条約を中心に—『世界の労働』23-8、8月20日

日

世界と共に歩む『日本経済新聞』11月22日[『国境のない旅』収録]

二つの百年祭『法曹』278、12月1日[『国境のない旅』収録]

In memorium; Mr.Kan'nosuke Nakamatsu 『The Japanese Annual of international law』17

International adjudication and Japan 『The Japanese Annual of international law』17

1974(昭和49)年

弔辞[田中耕太郎追悼]『法曹』282、4月1日

田中博士をしのぶ[田中耕太郎追悼]『心』27-5、5月1日

長い報告書[「ずいひつ」]『労働と経営』12-5、5月1日

田中博士の逝去を悼む『国際法外交雑誌』73-1、5月30日

新しい法の殿堂『法曹』284、6月1日

故田中耕太郎会員追悼の辞[「彙報」]『日本学士院紀要』32-2、6月11日

生れながらの勉強家[我妻栄追悼、「追悼随想 民法一筋と花模様」]『ジュリスト』臨時増刊、6月21日

*法の殿堂『月刊朝雲』12-7、7月1日

*趣味と健康にスポーツを楽しむ『不老長寿』8月1日

ケルゼンとメースン『法学セミナー』227、8月1日

人類の危機を救うために[講演要旨]『[岡山県教育委員会]教育時報』304、12月25日

1975(昭和50)年

外交旅券のききめ[7月、『国境のない旅』収録]

ベルリンの壁[7月、『国境のない旅』収録]

敗戦を喜ぶ[「私の8月15日」]『法学セミナー』242、8月1日

ローレライ、昔と今[8月、『国境のない旅』収録]

ラテン・アメリカ人は数字に弱い[9月、『国境のない旅』収録]

国境らしくない国境[9月、『国境のない旅』収録]

マルセイユの娘[9月、『国境のない旅』収録]

洗練されたフランス人、やぼったいドイツ人、ぶしつけなイタリア人[9月、『国境のない旅』収録]

フランス外相ブリアンの大雄弁[9月、『国境のない旅』収録]

好敵手、ソ連の国際法学者ツンケン[9月、『国境のない旅』収録]

弁護士の輸出[9月、『国境のない旅』収録]

和而不流[9月、『国境のない旅』収録]

*棋道懇談会の発足に当って『棋道懇談会会報』1、10月

1976(昭和 51)年

この人にきく[河本晃によるインタビュー]『時の動き』20-2、1月15日

*新憲法と婦人の地位[講演]『中部日本新聞』5月5日

*新憲法と婦人の地位[講演]『中部読売新聞』5月5日

*囲碁対談『棋道懇談会会報』3、8月[対談：長谷川章]

私と健康『国民』923、9月1日

緑の開発と市民参加の運動を[「なごや望見」]『名古屋タイムズ』10月28日

1977(昭和 52)年

勉強しだい『潮』212、1月1日

平和の在り方[講演於世界平和協会]『世界平和』11-2、3、5月25日、9月15日

アメリカ人氣質『法曹』321、7月1日

激動する海洋法[巻頭言]『学術月報』30-4、7月15日

1978(昭和 53)年

日本における違憲審査—マニラ世界法会議の演説—『法の支配』33、1月31日

主権と国際法[「本との出会い」]『日本経済新聞』4月2日

領海 12 カイリ、漁業水域 200 カイリについて『法の支配』35、6月30日

*二〇〇カイリ漁業専管を中心として『ハイスクール・ニューズ』10月10日

法律と共に六十年[「自伝抄」]『読売新聞』11月20～23、25、27～30日、12月1、2、4～9、11～13日[『自伝抄 VII』(読売新聞社、1979年11月18日)、『余生の余生』収録]

1979(昭和 54)年

私の健康法はスケートとテニス[「新春対談」]『一宮タイムス』1月14日[対談：高橋猛]

国際会議の体験—国際法学者として—[講演於 1978 年国際法学会総会]『国際法外交雑誌』77-4、2月28日[『余生の余生』収録]

大学の理事会と教授会『大学世界』2-6、6月1日

ジュネーブの白球[「柳田邦男の対談シリーズ」]『季刊おおぞら』25、7月1日[対談：柳田邦男]

*棋界助成の要望書『棋道懇談会会報』12、11月

弔辞[小町谷操三追悼]『海法会誌』23、12月20日

1980(昭和 55)年

横田喜三郎氏に聞く[「法曹あの頃」]『法学セミナー』301、302、3月1日、4月1日[野村二郎のインタビュー]

わたくしの趣味『国民』967、5月1日

法の最善の解釈者は慣行である[巻頭言]『法学セミナー』304、6月1日

友あり、遠方より来たる『ジュリスト』722、8月15日

同じことはくり返さない『Law School』27、12月1日

1981(昭和 56)年

中国を訪問して『法曹』365、366、3月1日、4月1日

規則正しい生活こそ大切 スケートを楽しむバランス感覚が抜群『経営コンサルタント』396、10月1日

*氷上に踊る『棋道懇談会会報』24、11月

1982(昭和 57)年

横田喜三郎先生と囲碁[インタビュー]『法曹』375、1月1日

法による世界平和[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-1、4月1日[『法律つれづれ草』収録]

世界の法の日[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-3、4、5月1日、6月1日[『法律つれづれ草』収録]

老いては基にしたまえ『読売新聞[夕刊]』5月22日

二つの国境[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-6、7月1日[『法律つれづれ草』収録]

学問の自由[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-8～10、8月1日、9月1日、10月1日[『法律つれづれ草』収録]

生涯を平和と法の使徒として『新潮 45+』1-5、9月1日

教科書問題、真の解決とは『読売新聞[夕刊]』10月5日

外交官笑話[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-11、13、11月1日、12月1日[『法律つれづれ草』収録]

*国際会議の体験『[東京ロータリー・クラブ]Tokyo Weekly』34-44、月日未詳

1983(昭和 58)年

横田喜三郎先生に聞く一法と平和と学問の自由と一『月刊法学教室』28～30、1月1日、2月1日、3月1日[聞き手：寺沢一、波多野里望]

三権広場[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』37-14～16、1月1日、2月1日、3月1日[『法律つれづれ草』収録]

終生の友[「随筆」]『週刊基』269、1月4日

師弟対談 私にとっての一期一会『総合教育技術』37-16、3月1日[対談：寺沢一]

人類が生き残るために[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-1、3、4月1日、5月1日[『法律つれづれ草』収録]

スケートをはじめて56年になりますが・・・『Athletic Book[ランナーズ増刊]』1、5月1日

*わが人生の師—老いてますます盛んな研究意欲『致知』5月

国際法、生れ出る牢獄の苦しみ[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-4、6、6月1日、7月1日[『法律つれづれ草』収録]

ふるさと江南『中日新聞』6月30日

*告別の言葉『瑞陵』7月8日

終生の友、東畑精一君をしのぶ『学会会報』760、7月10日

*東畑精一君をしのぶ『棋道懇談会会報』31、7月

外交的辞令[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-8、9、8月1日、9月1日[『法律つれづれ草』収録]

法を守れば必ず平和に[「山ろく清談」]『信濃毎日新聞[夕刊]』8月10日

当時の反省をいまいちど 38 回目の敗戦記念日を語る[インタビュー]『読売新聞[夕刊]』8月15日

条約は紙くずか[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-10、11、10月1日、11月1日[『法律つれづれ草』収録]

[「日本を代表する30人『そのとき[田中角栄有罪判決]私は何を考えたか』」]『週刊現代』25-42、10月29日

英語の帝国主義[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-13、12月1日[『法律つれづれ草』収録]

1984(昭和59)年

老人の生き方[巻頭言]『AGING』1-5、1月1日

最後のヨーロッパ旅行『法曹』399、1月1日

正義びいき[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-14、1月1日[『法律つれづれ草』収録]

法・心理・教育—自由は健全な制限と比例的—『総合教育技術』38-14、1月1日[対談：波多野完治]

日本外交官の特徴[「法律つれづれ草」]『総合教育技術』38-15、16、2月1日、3月1日[『法律つれづれ草』収録]

イギリス学士院の訪問[「彙報」]『日本学士院紀要』39-3、3月31日

和而不流[「法律と人間」]『総合教育技術』39-1、4月1日[『法律つれづれ草』収録]

強くなった靴下と女[「法律と人間」]『総合教育技術』39-3、4、6、5月1日、6月1日、7月1日

ケルゼンの『純粹法学』[「わが人生の一冊」]『新潮45+』3-6、6月1日

裁判官はすばらしい[「法律と人間」]『総合教育技術』39-8、9、8月1日、9月1日

日本人の法律外生活[「法律と人間」]『総合教育技術』39-10、10月1日

弁護士の輸出[「法律と人間」]『総合教育技術』39-11、13、11月1日、12月1日

1985(昭和 60)年

世界と共に歩む[「法律と人間」]『総合教育技術』39-14～16、1月1日、2月1日、3月1日

第三次世界大戦は起るか 米寿の回顧と展望『読売新聞』1月3日[「第三次大戦は起らない」と改題、『リーダーズ・ダイジェスト』41-1、1986年1月1日に転載]

閑中忙ありー平和への寄与願「日本国際賞」に奔走『読売新聞』5月14日

1986(昭和 61)年

第三次世界大戦は起こらない『リーダーズダイジェスト』41-1、1月1日

世界と共に歩む『[秋田経済法科大学法律政治研究所]紀要』2、3月30日

訴訟の促進に苦心、今は悠々自適ー最高裁の思い出ー『月刊法学教室』27、4月1日

国あげて祝うノーベル賞 見習いたい「日本国際賞」[「論点」]『読売新聞』4月15日

若い日の私ー満州事変の“違法性”をつく『毎日新聞』5月30日

現代国際法における純粋法学の意義ーフェアドロス教授の貢献ー『立教法学』26、6月20日

身心の鍛練と検診が長寿への道！『経営コンサルタント』454、8月1日

1987(昭和 62)年

変動する法制ー特に国際法について[「随想」]『ジュリスト』875、1月15日

好きな言葉『法曹』442、8月1日

“明治の気骨”に聞く[インタビュー]『野田経済』1471、9月1日

1988(昭和 63)年

世界の中の日本語『現代』22-1、1月1日

法律があったればこそ苦難も希望も実になった[「八十路は語る」]『致知』153、4月1日

司法試験の改革ー受験3回に、合格千人にー[「司法試験改革・私の意見」]『Article』27、5月10日

世界と共に歩む『Article』31、32、9月10日、10月10日

1989(昭和 64・平成元)年

「規則正しい生活で余生を楽しむ」[インタビュー「この人に聴く」]『AGING』6-4、2月1日

1990(平成 2)年

ゆゆしい環境の汚染ーその思い出のあれこれ『法曹』471、472、1月1日、2月1日

柳条湖から真珠湾へー国際法からみてー『日本学士院紀要』45-2、10月31日[加筆して『世界と共に歩む』収録]

昭和から平成へ『週刊読売』49-51、11月27日

1991(平成3)年

[インタビュー]『厚生』46-9、9月1日

法曹界七十周年と百周年『法曹』491、9月1日

法曹の大幅な増加『法曹』494、12月1日

1992(平成4)年

世界平和のために[「21世紀へ託す」]『月刊Asahi』4-1、1月1日

わたしの知的健康法「規則正しく」が一番の良薬『経営コンサルタント』526、8月1日[インタビューア：
塩月修一]

掲載誌紙・刊行年月未詳

*横田喜三郎編「私の著述」に記載されている以下の著作は、掲載が確認できない。見落としも絶対ないとはいえないが、掲載紙誌・年月日に誤記があると思われる。

マルセイユの兇変『外交時報』1934年10月

The recent development of the Stimson doctrine, *Contemporary Japan*, 4-2、1935年9月

講和問題の焦点『読売新聞』1949年4月13、14日[座談会：岡崎勝男、曾祢益、堀越禎三]

講和と安全保障『財政』1950年1月

日本の国連加入『北海道新聞』1952年9月23日

国連協定—互譲の精神『北海道新聞』1952年11月22日

旧かなづかい『西日本新聞』1953年2月22日

二重外交の悲喜劇『北海タイムス』1953年6月14日

日本の国際司法裁判所加入『山形新聞』1953年12月8日

秘密の効用『信濃毎日新聞』1954年6月17日

米国の互惠外交『西日本新聞』1955年1月20日

独立三年と日本の地位『西日本新聞』1955年4月30日

拒否権の不合理を痛感『毎日新聞』1955年12月15日

世界平和の基礎『世界平和』1967年4月15日

沖繩復帰を喜ぶ—国際友好と領土『サンケイ』1972年2月18日

野球観戦記『毎日新聞』1974年10月19日

長久手古戦場に青少年の学園[「ふるさと紀行」]『日本経済新聞』1974年11月29日

領海と漁業水域 『一宮タイムス』 1978年1月13日

氷上ダンス現役です 『大阪スポーツニッポン』 1981年1月9日

世界と共に歩む 『中日新聞』 1985年12月2日